

京都名所案内

145
271

025364-000-7

特61-722

京都名所案内

青木 恒三郎 / 著

M28

ADC-2803



特 61

722



吉本恒一郎著

京都山田花版



特61

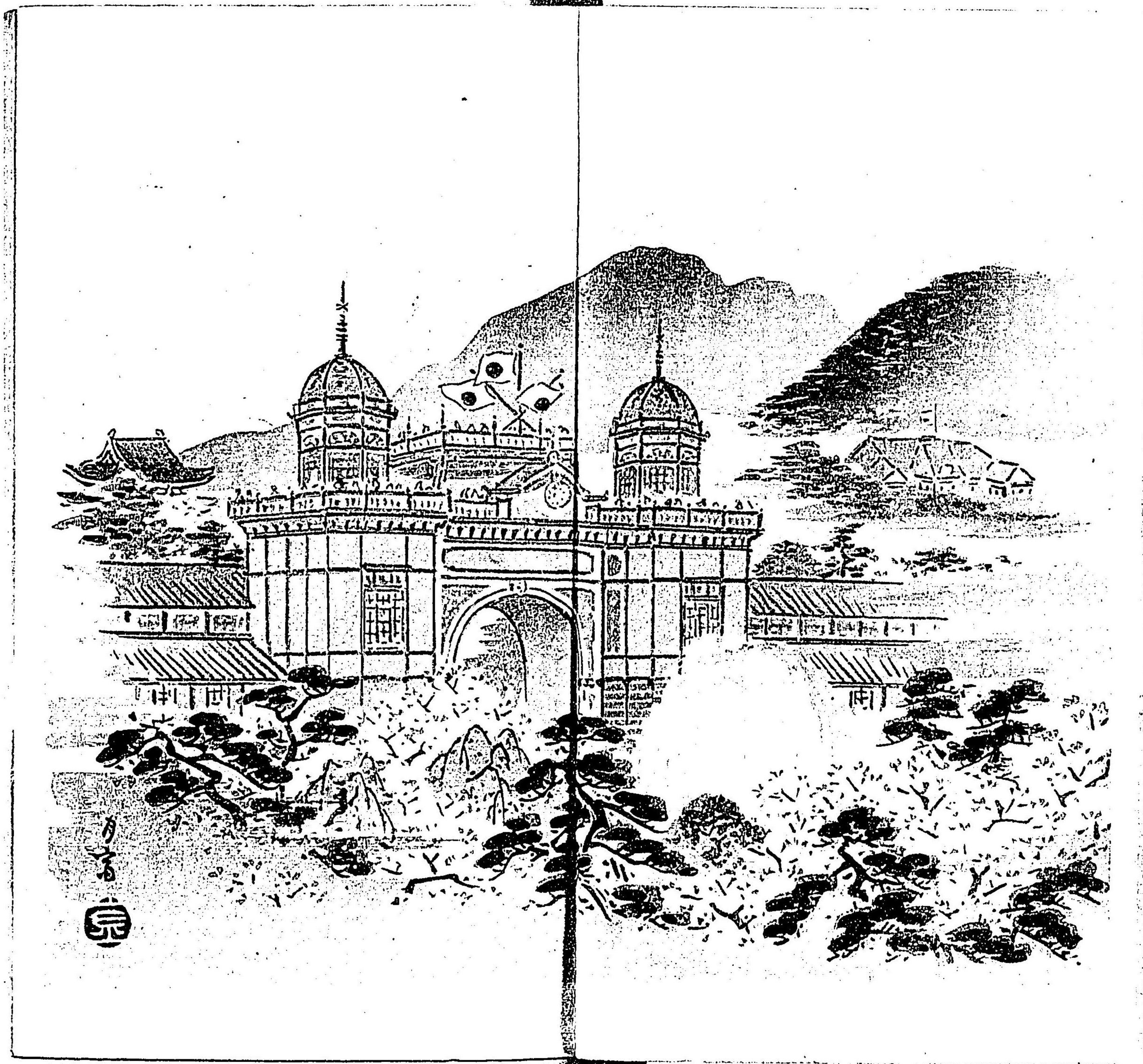
722



吉本恒一郎著

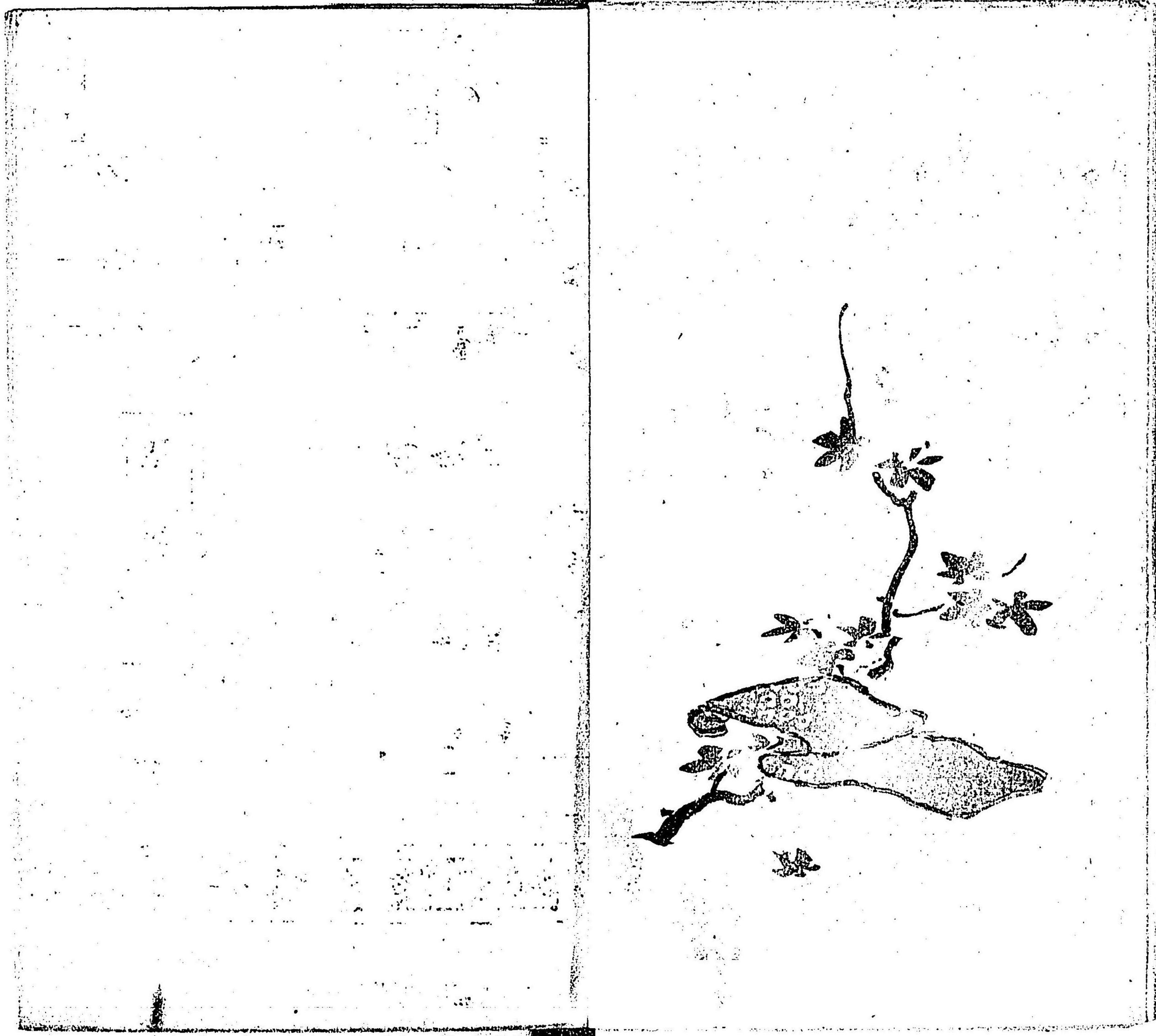


京都山田房版



宗





會場各館及附屬建物坪數

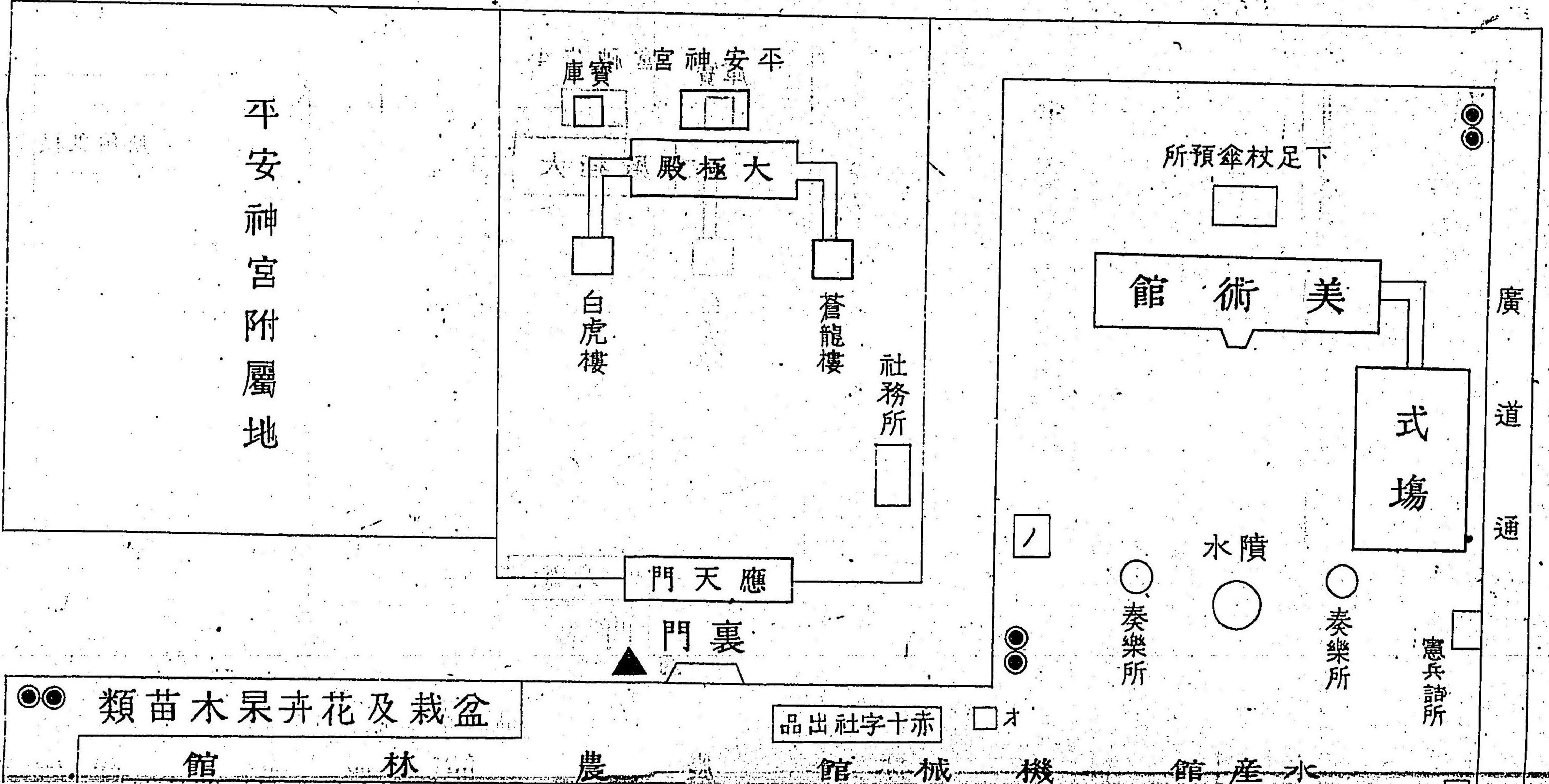
(一千二百分の一)

- 一 工業館 四千二百五十坪
- 中央大通路 三百坪
- 一 農林館 千四百四十坪
- 一 器械館 九百坪
- 一 水産館 五百四十坪
- 一族館 三十五坪
- 一 動物館 六百坪
- 一 美術館 四百八坪
- 合計 八千四百七十三坪
- 一 事務所其他附屬諸建物 千五百七十四坪
- 合計 一萬〇〇四十七坪

凡例

- イ 麵類 稻岡傳兵衛
- ロ 料理 西村丈右衛門
- ハ 天麩羅 長瀬伊助
- ニ 氷水店 上依知庄助
- ホ 茶菓 河野通經
- ヘ 善哉 今井辰三郎
- ト 果物 太田新太郎
- チ 和洋料理共樂館中村嘉三郎
- リ 牡丹餅善哉笠原寅四郎
- ヌ 壽し 佐藤龜吉
- ル 辨當 北村芳太郎
- ヲ 壽し 紀の松尾延治郎
- ワ 喫茶 森島俊三
- カ 辨當 井口清兵衛
- ヨ 九三ビール 岡島卯三郎
- タ 料理店 山田伊八
- レ 汁粉 石野吉五郎
- ソ 茶菓 水田三治郎
- ツ 料理店 澤田文治
- 子 料理店 西田清兵衛
- ナ 氷水店 小原茂三郎
- ラ 茶菓 葉龜長則今井清次郎
- ム 辨當 富山柴人
- ウ 西洋料理 豊田重太郎
- エ 麵類 平井治右衛門
- ノ ビール 鳥井駒吉
- オ 洋酒 柳本平兵衛
- ク 洋酒、休憩所 大隅富助
- カ 氷水 石合喜久藏

第四回内國勸業博覽



平安神宮附屬地

●● 盆栽及花卉果木苗類 館 林 農

赤十字社出品

水産館 器械館

京都名所案内

第四内國勸業博覽會案内記

明治二十有八年四月は 桓武天皇平安遷都の大業ありしより將又千百年又相當するを以て其紀念祭の大業を舉行すると共又地を鴨東岡崎町又トして第四勸業博覽會を開設せらるる由願する

明治十年第一回を東京又創むるや時恰も西南の變亂又際し丹馬邊の中なりし勸業の事は國家一日も猶豫す可きもの非ずとて時の内務卿故大入深公は断乎として開會せられたり爾來第二回を十四年又第三回を二十三年又同じく東京又開會せり而して其成績は會一會毎又進歩を來し殖産の道益發達ひ以て今回に至る惟又方今は如何なる時をや征清の大軍は客歲以來幾個月朝鮮を嘗め困苦を忍び百戰百勝以て帝國の威武を中外又宣揚す軍國の事何物か是に如く而も我國底の大度量は綽々として餘裕あり則ち其大捷を歡呼すると共又一方又は致々汲々勸業之礼勵むの結果出品總數實は二十万八千七百餘點の多きを致す是を前回又比すれば更は二万七千七百餘の超過を見る國家の慶事洵又之又如

くものなし且や地は山水風光の明媚を専らとし年は豊熟の餘を享け時は花木輝妍として笑ひ小鳥嬌音を弄する好期又當り傍ら大社名寺の珍什佳寶を普く觀覽又供するなれば海の内外又論なく老若男女舟車の便又由り東西南北相牽ひ絡繹として來らん此又於てか本書を編し以て順覽又便と與ふ

○ 揭示文

一 本會は明治二十八年四月一日又開き七月三十一日又閉づ

一 動物の出陳は馬を五月一日より同十五日迄 牛 羊 豚 家禽を五月二十六日より六月九日迄とす

一 蔬菜果物の生物及び盆栽類は其季節又隨ひて出陳す

一 但し一週間の後撤出することあるべし

一 會場の開閉時限は左の如し

一 但都合は依り之を伸縮し又は來觀を差止むることあるべし

一 入口は午前八時又開き午後五時又閉づ

一 出口は午前八時又開き午後七時又閉づ

一 各館は午前八時又開き午後六時又閉づ

一 來觀人は一名毎又必ず一枚の入場券を携ふべし

一 但滿五年以下の者は入場券を要せず

一 入場券は左の三種とし門外又於て賣渡すべし

一 平日入場券

一 土曜日入場券

一 日曜日入場券

青色 一枚 金五錢

白色 一枚 金三錢

紅色 一枚 金拾錢

但入場券は入場の節門衛又渡すべし

一 入場券を携ふる者といへども瘋癲又は醉狂者と見認るときは入場を禁じ又は退場せしむべし

一 諸荷物并酒類を携帶し又は畜類を率て入場すべからず

一 但し杖傘其他手提胴亂長幅凡一尺厚以下の類は此限又あらざ

一 美術館は杖傘蓑笠を携帶し又は下駄草履等土間を踏みたる儘又て入館を許さず

一 但貸草履下足番并杖笠等の預所は美術館の傍又あり

一 凡て各館内は勿論特又揭示する場所又ありて煙草を吸ふべからず

一 館内の物品又手を觸るべからず

一 場内園中の埒内又入り又は草木又損害を與ふべからず

一 陳列品及飾箱其他の物品を損傷するときは相當の代價を償はしむべし

一 出品人の承諾を得事務局の許可を得るべし

一 若し陳列品を寫真し又は模寫することとを許さず

一 但會場内の景狀を寫真し又は模寫せんと欲する者は事務局の許可を受くべし

一 在場中本會又所用あるものは一重櫻の章標を佩ひたるもの并本會の記章ある制服を着したる守衛又問ふべし

一 構内又於て發病する者は工業館外の西側醫員詰所又申出づべし

一 構内又於て携帶品を擲取られ遺失し若くは拾ひ取りたる時は速に巡行の警察官又は構内の詰所へ申出づべし

◎ 入場券賣捌所

入場券賣捌所は會場表門の左右に各一箇所づつ、其東手の南門と東門及北門外又一箇所づつ、合せて四箇所あり觀覽人は便利なる處に於て入場券を買求むべし

◎ 手荷物預所

諸荷物を持ちながら場内に入ること禁するを以て表門左右通券賣捌所の近傍に設けある手荷物預所を就き之を預けて入場すべし

◎ 各館觀覽の順路

各館觀覽の順路は觀覽人の便宜を先とし後とするも妨なれと先づ其順路の概略を以て最初南門則正門より入る正面を工業館とす此館は四棟貫聯して廻廊形を成しを以て其南廊の西部より始め京都鳥取兵庫岡山廣島山口等諸府縣の出品を觀て西廊より島根福井石川和歌山徳島香川愛媛高知福岡大分等の陳列場を看過し北廊の西部移れば佐賀長崎熊本鹿兒島沖縄宮崎富山新潟北海道并諸官道千葉茨城埼玉の列品あり是より同廊の東部に移り東京神奈川秋田山形青森岩手等の陳列品を觀て東廊へ入は宮城福島椽木群馬長野岐阜滋賀

山梨静岡愛知三重奈良の陳列品あり是より南廊の東部に移るべし茲にて大阪京都二府の出品を觀終り再び此廊の中央へ還るべし此諸館は凡百の工業品及教育品礦石類を陳列する所なり此南廊の中央へ還りたる上歩を北へ進め庭園へ入れば其東部は茶業組合の茶店あり茲にて喫茶し農林館に至るべし此館は農業山林を屬する諸府縣の物品を陳列す此館の北へ出れば苗木栽培所及盆栽の陳列あり目を娛ましむべし其側は陳列せる北海道炭礦會社出品を係る石炭の大塊などを一覽し北方なる機械館へ入るべしこの館は諸機械及自動車等を陳列し水力電氣を以て日々運轉を試むる所とす茲にては觀覽人殊に足を止むる所ならん觀覽せんとすれば數時間を費すも猶足れりとせざるべし水産館へ移り魚介海藻の陳列を觀て同館外の水族室に至り看よ茲は河川の魚類を生ながら養ふ所とす此南手には各種の飲食店休憩所あれば一度茲に足を休めて後北へ歩みて美術館へ到るべし此館は正面より入るを許さず後面より昇降することとし其側は下足預所あり貸草履と履き替へ昇るを要す但靴なれば其儘にて妨げなし同館は繪畫彫刻時繪七寶其外工藝

美術品類を陳列す其の區分を以ては同館樓下の東室は東京大阪其他の繪畫寫真書版水類を陳列し同西室は京都其他の繪畫彫刻品として樓上は油畫各工藝美術品を羅列す觀終て再び同館後ろの出口より廢物を受取り式場の前を南へ水産館の東側を過ぎ稍東して動物館に至り牛馬羊豚と其南手の家畜舎等をも一覽と正門若くは其東手の南門等より出るを順路とす此門外西側は諸府縣の賣店數十軒及九州各縣聯合の鐵道館あり又運河を南へ渡れば京都協會の賣店と其東は大阪商品陳列所の賣店あり孰れも館内出品と同一なる物を販賣す此に至りて觀覽全く終る夫工業館を始め諸館の陳列品を一通り廻覽せんとすれば二日を費すも猶普きを獲ざるべし殊に老人婦人など足病のものは初日又工業館を通過し猶時間又餘りあらば盆栽陳列動物交會等見て一日の觀覽を終へ翌日は北門より入り農林器械水産の三館を過ぎて美術館を觀覽し庭園を通り南門より出るとせば便利ならん而して若し本文の順路を據らず觀覽せんとせば東南北の各門孰れより出入するも隨意なりとす

一館内回覽の順序は毎館入口より圖面揭示書を以て其順路に従ふ時は便利多かるべし

平安神宮 紀念殿の北にあり 桓武天皇を祭る後は黒谷聖護院の森翁齋として連り前は疏水運河の水潺湲として流清し遙く望めば比叡愛宕の山々峰々變遷として霞罩めたる近頃は東山の翠巒滴たるが如き其眺め得も云はれず

抑も 桓武天皇は聰明睿知の天資を以て御父光仁帝の後を承けさせ給ひ克く精を勵し治を圖り東夷征討平安建莫の大業を樹て給ひ以て帝業を恢弘し以て邦基を鞏固とし社稷をして九鼎大呂より重からしめ給へり今茲明治二十八年は恰も平安遷都の千百年に詠當するを以て市民は永く天皇の大徳鴻業を追尊し其神靈を鎮祭し奉らん為る平安神社を建設せんと欲し明治二十七年三月起工也本年二月漸く竣成せり其形式は畧加茂神社に則り構造の主要なる木材は高野檜を用ひ石材は白川石を用ひ其開雅優麗なる一見平安の曠昔を想ひ起さしむ是より先神號を平安神宮と賜ひ官幣大社と列せられ本年三月三十日遷都紀念祭大典を執行せられたり實に千載一遇の盛事と云ふべし

紀念殿 延暦の昔桓武天皇が平安京經營の節拜賀の式を享け給ひたる大極殿を摹

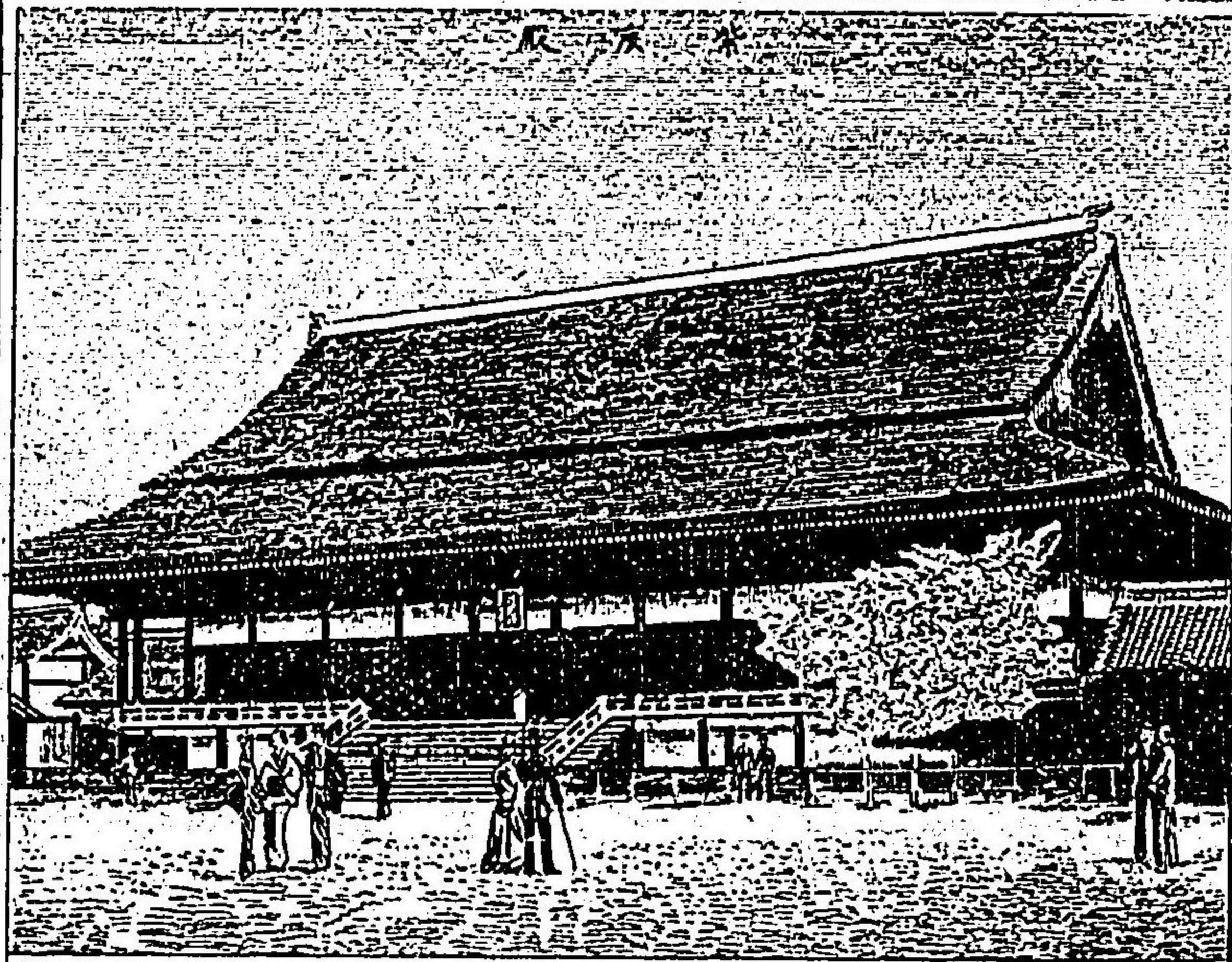
倣し明治二十六年十月を以て工を起し同二十八年二月竣成す實は平安神宮の拜殿なり南面は神門あり應天門と名づく高さ六十四尺二層樓として屋上は金銅の鴉尾を懸く階上は椽あり椽は欄あり丹敷粉壁の装人目をして眩せしむ應天門の北三十間として龍尾壇あり壇上は朱欄を設け左右は登路あり各三級を設く夫れより北二十五間あるものは是即ち大極殿なり殿は南面にして高さ五十五尺桁行百十尺梁間四十尺中央を身舎とし廻らすは五十二の丹楹を以てす椽は瓦を合はせ屋は瓦を疊む金銅の鴉尾は燦然として其上は輝けり殿の左右は歩廊あり東西は走り亦南折して二樓は通す東を蒼龍と謂ひ西を白虎と名づく其製相同じく各四隅は小樓を構へ中央は又一樓を層ぬ階上亦椽を廻らし欄を設く手工織巧人をもて其按排の妙配置の良きは歎賞せしむ嗚呼其規模の宏大なる其建築の壯麗なるとは蓋し本邦神社中其首位を占むるものなる可し今よりして後樹木漸く成り古色蒼然なるを見るに至らば其大觀蓋し名状すべからざるものあらん

附言博覽會場内及平安宮大極殿の真相を知るとは本文と卷首圖を参照せば一目瞭然たる

畿内山城國之部

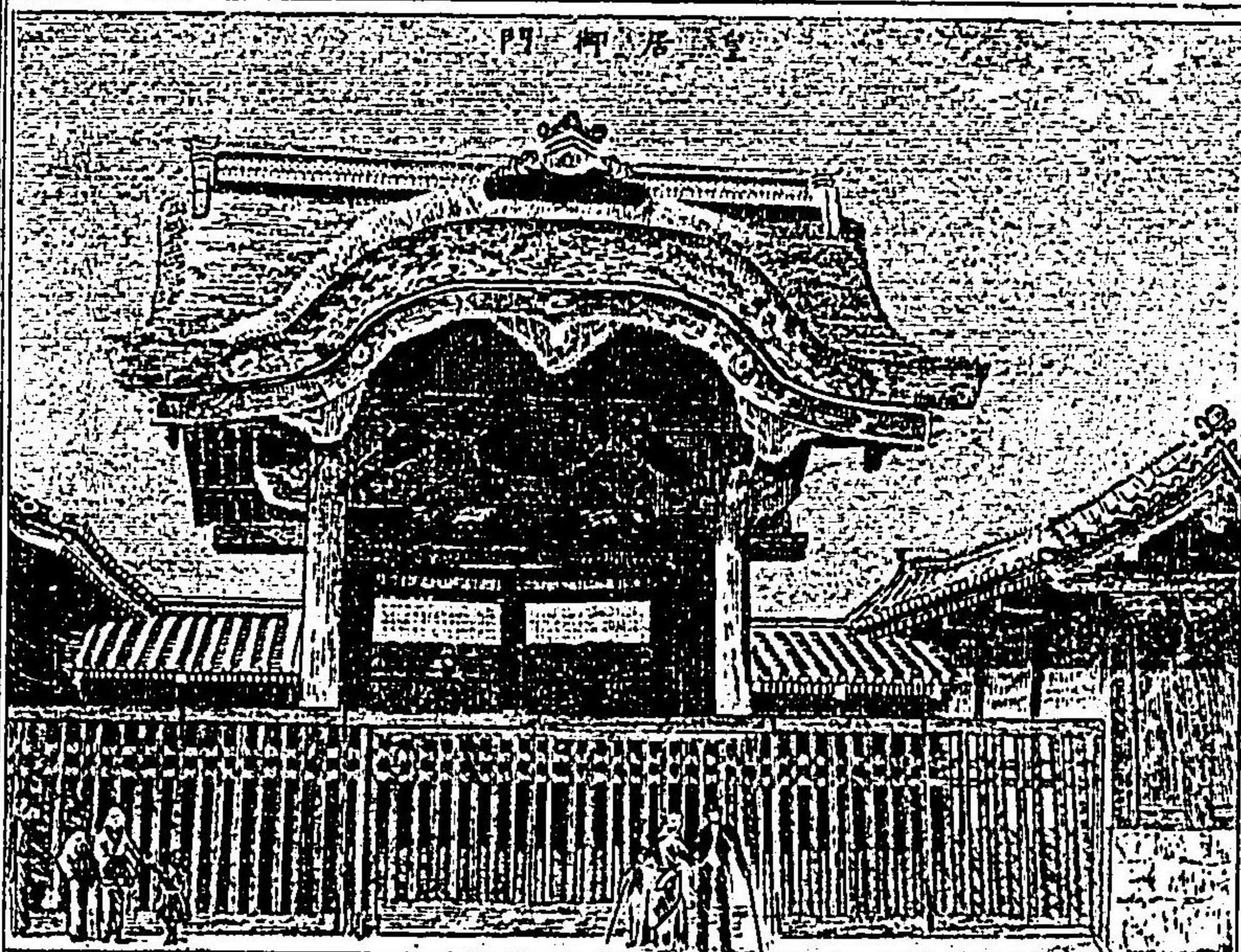
山城國ハ我邦の粗中央にして畿内五國の一なり皆此國の東南ハ近江伊賀大和は隣りて西北ハ丹波及び攝津は接し南ハ淀川を隔て河内は際たり東西九て六里餘南北の其長さ拾五里余あり而して東北隅は比叡山の高峰突元として聳へ又西北ハ愛宕山の嶺頭對峙せり此二山を國中の高山と云ふ鞍馬鷲ヶ峯笠置山ハ其次なり獨り正南より西に至り堺を攝津河内は接する所稍低れて丘陵と成る中央の地ハ平坦にして田野連絡して京都伏見の市街及び宇治八幡木津の大邑其間ハ存在せり淀の東に巨跡の大池あり此國ハ東北西の三面山を擁して田を成故に古昔ハ山背の字を書後山城と改む共は地勢は因て銘するあり又木州ハ八郡あり 葛野 愛宕 宇治 紀伊 乙訓 相樂 久世 綴喜等なり全國すべて人口ハ四十三萬三千百余人あり氣候ハ峯密包擁するが故に冬時ハ南隣の諸國より比すれば特は峭寒を覺ゆと云

THE SHISHINDEN, KIOTO.



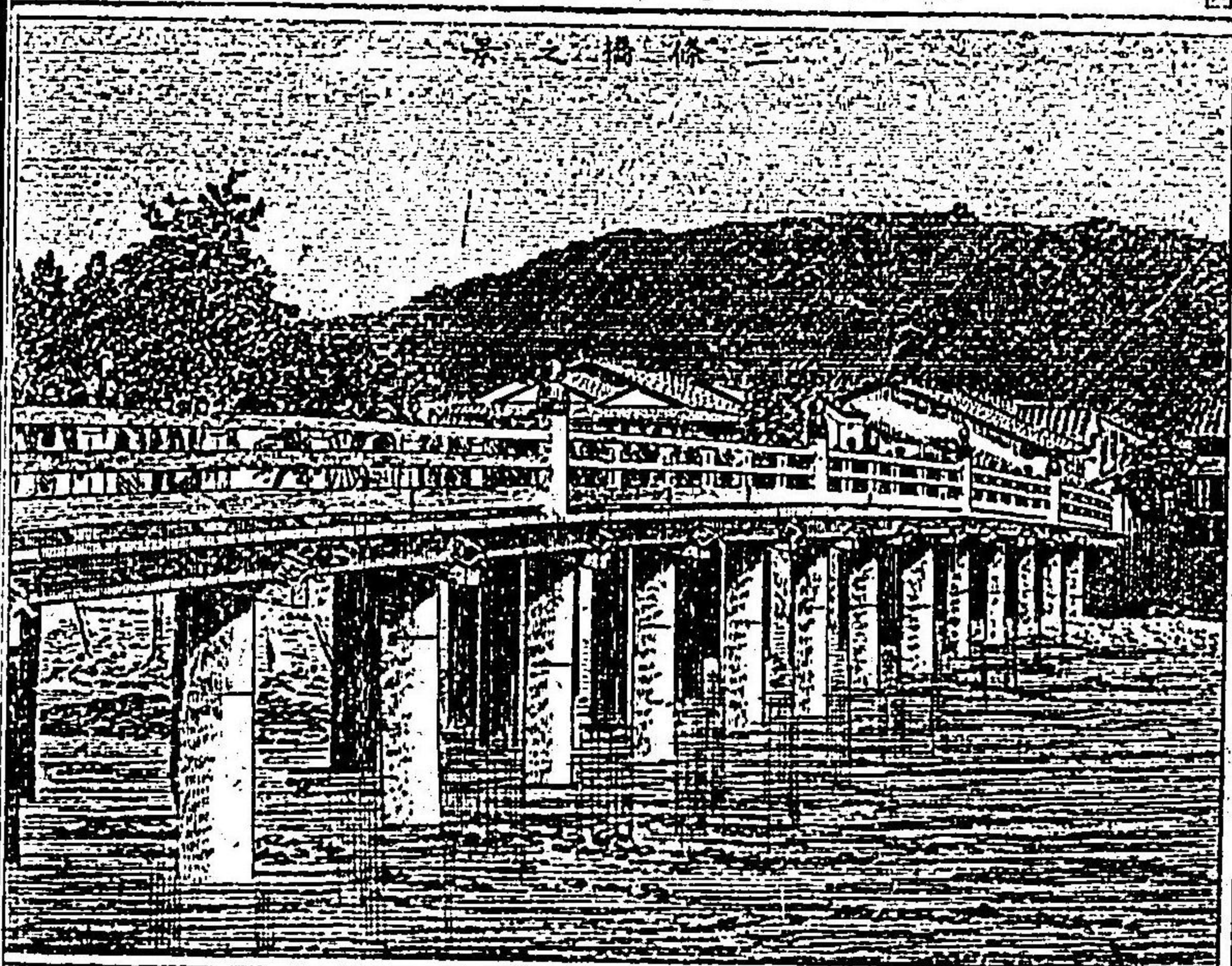
入皇五十一代桓武天皇此地に都を定給ひ
 今の遷都に至るまで一千零七十六年歴世
 代々の舊都なり 皇宮ハ舊内裏と尊稱し
 市坊の北位にして其面積ハ二拾五萬余坪
 周圍又土封を築き六門ありて中央又内郭
 を繋繞し南の方又仙洞御所の舊跡林泉ハ
 春秋の光景絶佳なり其外公室緡紳の廢邸
 ハ廣漠たる御苑と變り柳櫻を繁植し春の
 錦や秋の紅葉と風光最も麗美なり内郭又
 兼明日華月華の門ありて回廊を繞し南又
 面する正殿を紫宸殿と稱し其外宮殿多く
 星列し宏壯美を極めたれど遷都の後ハ寂
 として聲なく保存せり

THE GATE OF THE MIKADO'S PLACE KYOTO.



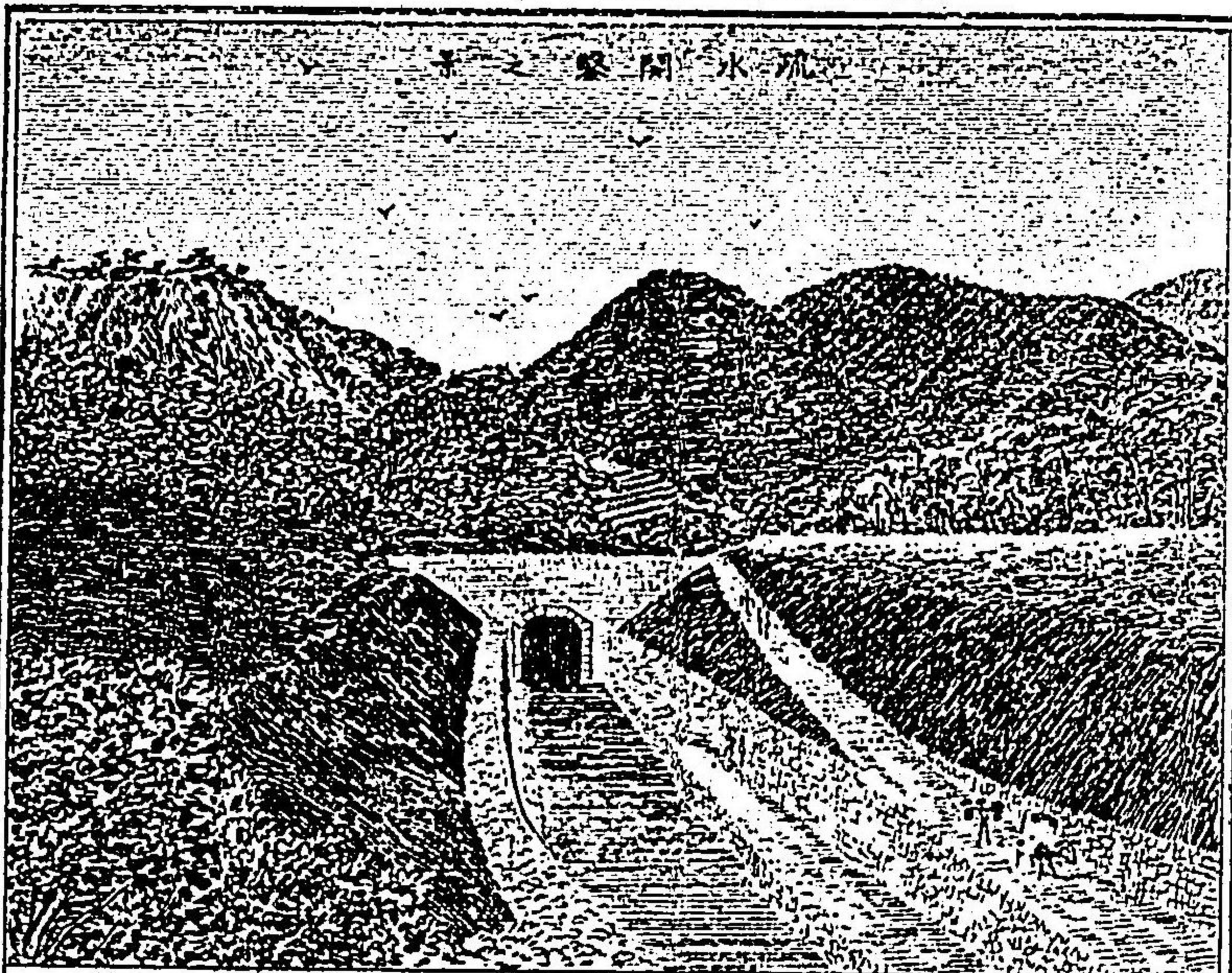
京都之記
 京都ハ本州の愛宕郡又地を占めて市坊の
 其廣さ東西ハ壹里餘南北の其長さ壹里半
 余なり皆て全市ハ三條通を區限とし上下
 の二區又大別し加茂川又は三條四條五條
 と三大橋を架設せり街衢ハ端正稠密又軒
 を並べて建築し家室の製ハ凡て閑雅なれ
 ども職工作業の家多く貿易専門の地又あ
 らざ其地の男女風俗ハ節儉の稱あれども
 服飾の美を好み人情ハ温雅又して言語靜
 穩優美かり古來教多の沿革を経て舊跡の
 遺蹟處々又存し祠廟寺院の壯麗なる山河
 清美幽邃又して風光限りかき景致あり

SANJIŌ BRIDGE, KIOTO.

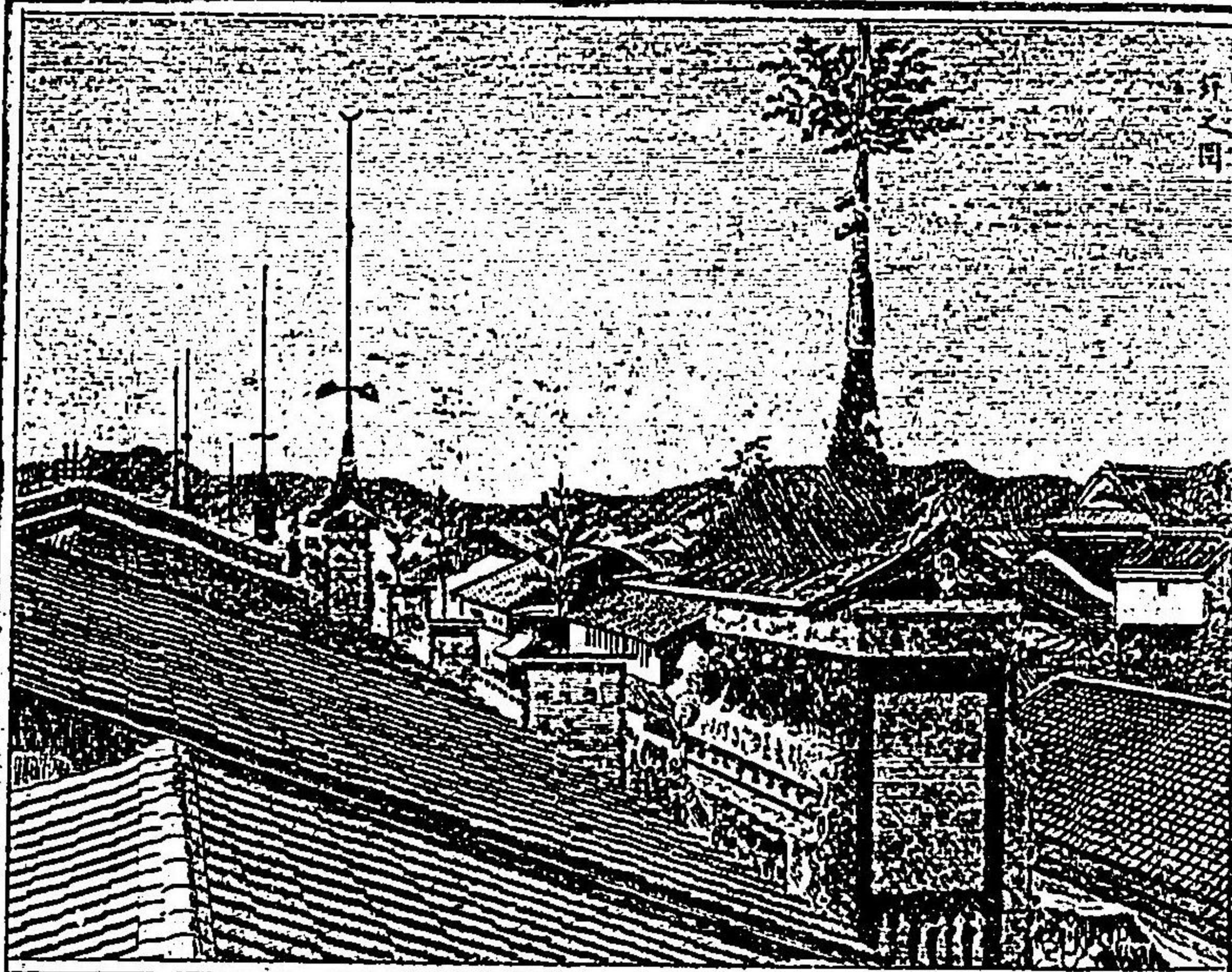


皇門を立去て廣小路又出て寺町通を南よ
 たり行は御靈の社や草堂の觀音閣を拜
 し水能寺又信長公の墳墓あり博覽場や勸
 業場其構造ハ煉瓦石を以て建築し石壘鉄
 柵を繞し花樹を栽頗る美を飾り府下職工
 を勸奨し物産を興立して益世の道を開示
 し織殿ハ各國の航海卒業の職工機械を蒐
 衆め新を競て綺羅錦繡を織出す集産場ハ
 諸産物佳品を陳列し代價ハ安く販かり三
 條の大橋ハ其長さ六十三間幅四間昔遊
 臣秀吉の架設して東海道や木曾街道旅行
 の喉吭の處とて此邊旅宿の家多く往來雜
 沓繁鬧の地なり

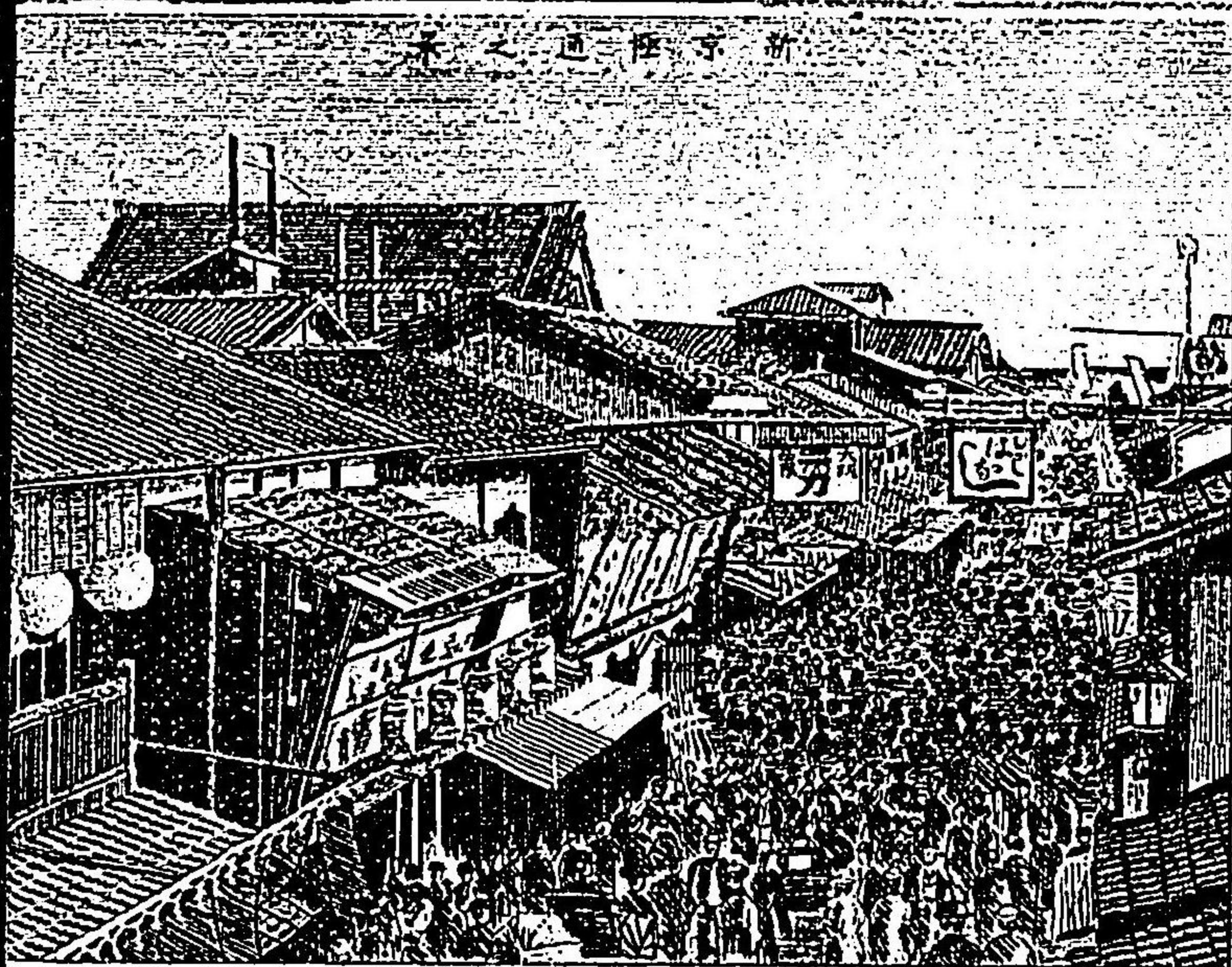
THE CANAL OF KIOTO.



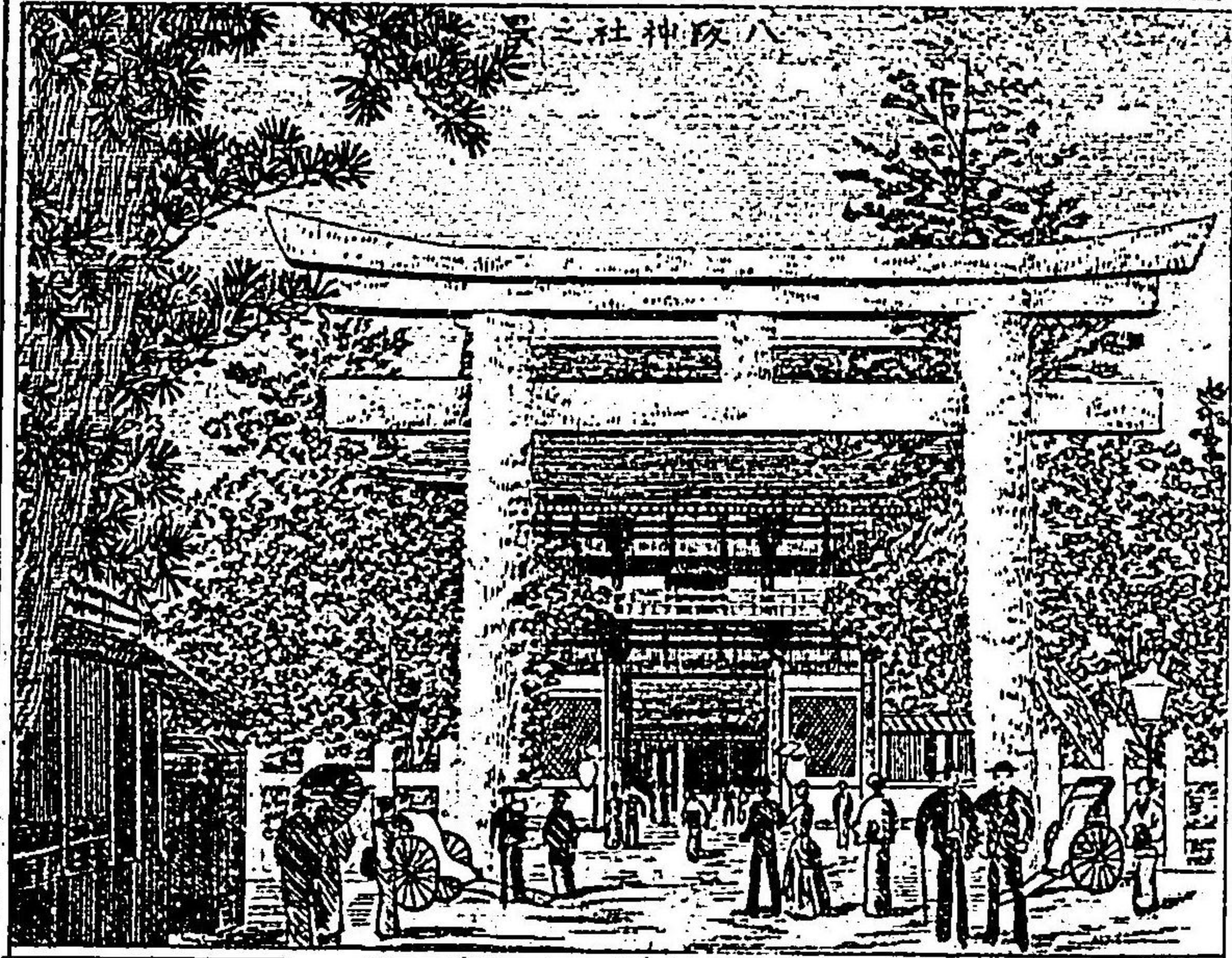
琵琶湖疏水の其初め明治十六年の秋の頃
 府知事北垣氏區内聯合の議會を開き本州
 の利益を供儀し先水源を近江國大津の瀨
 三保岨又始め三井寺の麓より第一隧道ハ
 逢阪山千餘間を鑿通し山科郷又堀を迂し
 第二の隧道ハ日岡山六百餘間を疏通して
 南禪寺の西よて水路を北よ掘り高野村の
 邊より西よ流し高瀬又分派して小川頭よ
 より更よ掘り川又南流するの目的なり
 誠工事又得る其利益第一貨物の運輸や或
 ハ山邊田圃の暑候の水旱を補助し又處々
 水車を設置して器械工事又供する為な
 りと未だ落成ならざれば其概を記す



八坂神社例祭祇園會ハ人皇六十四代圓融
 院帝天祿元年六月始て此祭例を行里れ今
 明治廿一年又當て八百八十九年の星霜を
 經て毎歲七月十七日及び廿四日の兩日又
 あり神輿三社古例又因て甲冑を着したる
 武者三十余人威儀揚々とし祭禮をなほ
 本日上擲る揚たる圖の如く飾車又乗たる
 人ハ笛鐘太鼓等にて囃を調へ牽巡る順路
 ハ四條通の西より寺町を過て松原通を西
 二牽納る舊例なり其裝飾たるや長刀鉾又
 ハ小鍛冶宗近の銘あり函谷鉾又僧空海筆
 跡金網の古物握々緋の唐縫や蜀江錦を鉾
 臺又巻て實又壯觀かり



新京極ハ寺町の東又並び三條通より南又
 向ひ誓願寺和泉式部の墳や軒端梅永福寺
 蛸薬師を過て錦天神社金蓮寺道場又豆の
 地ハ阪神社旅所例祭七月此又神輿を駐む
 を祇園會と云近世聞きし新路なれども都
 下便宜の居地を占家屋ハ隣次第比して百
 貨の舖や演戯場歌曲の聲ハ旦又絶間なく
 珍奇獸の觀物や喧囂を戸々又喚び茶亭
 又榻をあらべて愛媛が香奠薄茶を客又供
 し藝妓ハ靚粧奢を競ひ京樓宴席西洋風を
 模擬し花裡又池塘を繞らして朱魚や錦鱗
 が浮沈自由又游濠し紅顔の醉客逍遙足踏
 跚たり都の繁昌此地又比するなり

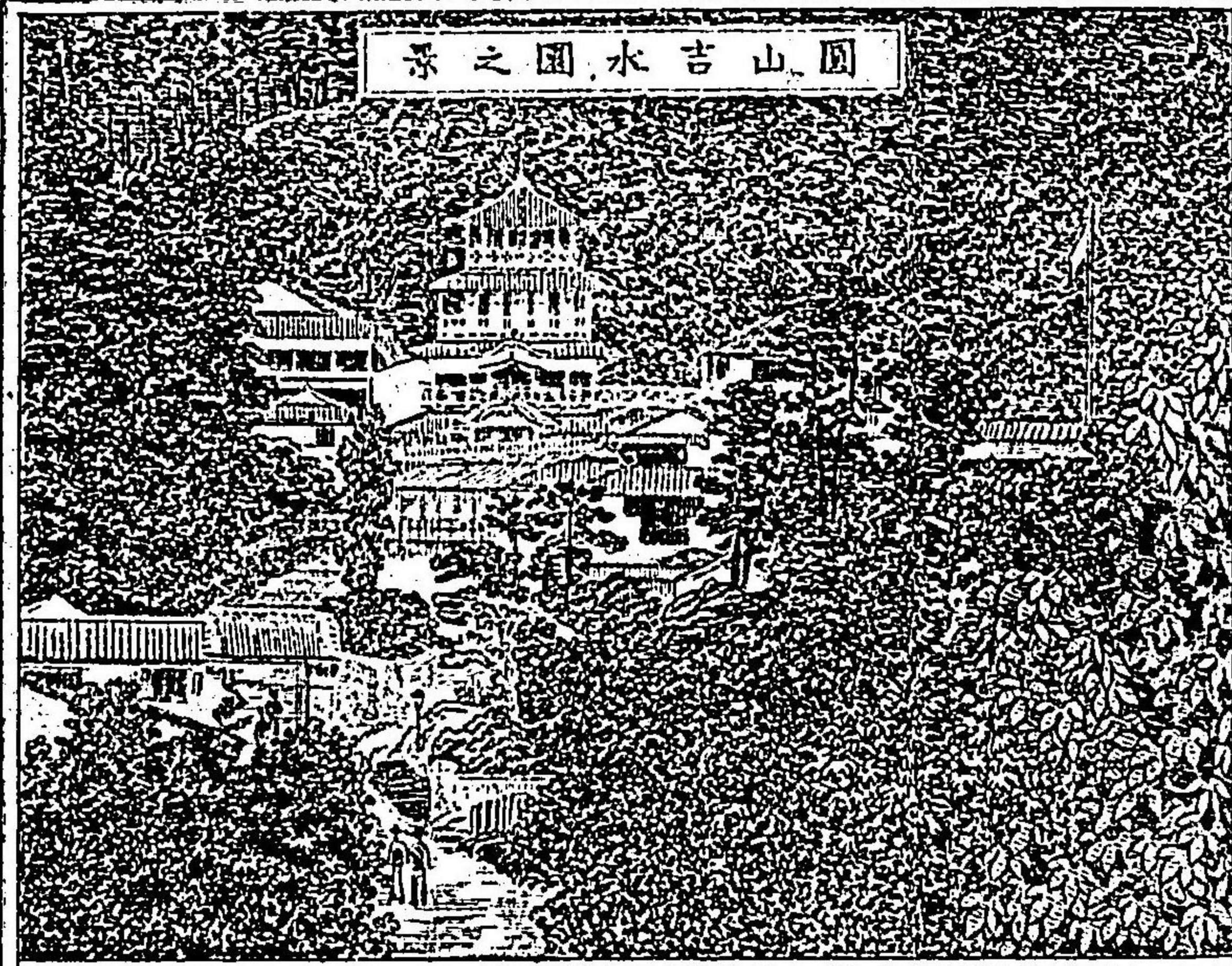


八坂神社
 如く或ハ螢燐の乱飛又騷靡り予も一夜
 此又愉快の酣興をふして極暑の苦熱を忘
 れたり
 八坂神社祭神ハ素盞鳴尊稻田姫八王子を
 合祀す此又二所の樓門あり西ハ四條通祇
 園町の遊里として弦歌の聲ハ旦夕絶る
 どかし又南門又向ふ町を下川原と云此又
 巨石の阜表あり此邊コ酒樓宴席多ク其長
 たる者を鳥居本中村屋柵尾平野屋と云古
 相傳ふ盃酌女ハ昔より靚粧赤き蕨膝を例
 とす社地ハ廣くして社殿ハ宏壯美を盡し
 攝社末社多し賽人常又多キハ東山諸社の
 魁とすまた社東又櫻林あり花ハ重瓣よし



藝妓教人手を揃へ踏歌を舞ひたり
 盛夏又納涼の名ハ夙又在夕陽風を涼風をかくり排上醉客愛媛を近づけ窓前又倚て
 涼意を愛し水邊の涼棚幾千人銀燭赫燦として水よりけれる照燈ハ恰も衆星の照す

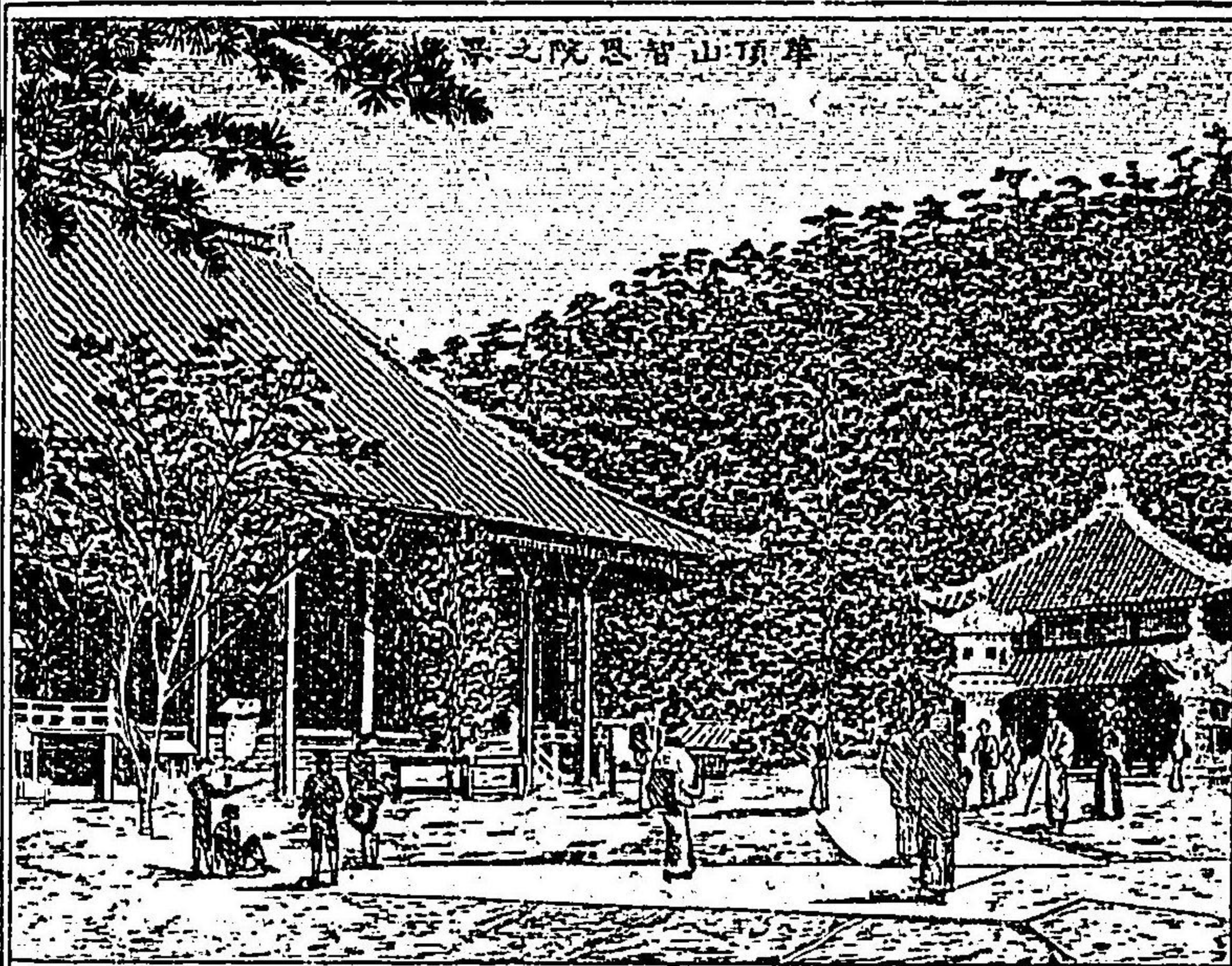
四條鉄橋の兩岸ハ酒樓妓院鱗
 次コ軒を並べ加茂川の清流コ
 望で峙ち橋頭の往來ハ人馬絡
 繚と織が如く肩摩較撃雜沓し
 橋下の水聲ハ鏘々として玉を
 叩き兩岸の玻黎燈常コ流水コ
 映じ岸頭揚柳ハ風又活ひ西岸
 を先斗町と謂東岸ハ祇園町北及
 び南祇園座と三戸の演戯場あ
 り歌舞練場又ハ例歳都踊とて



圓山吉水園之景

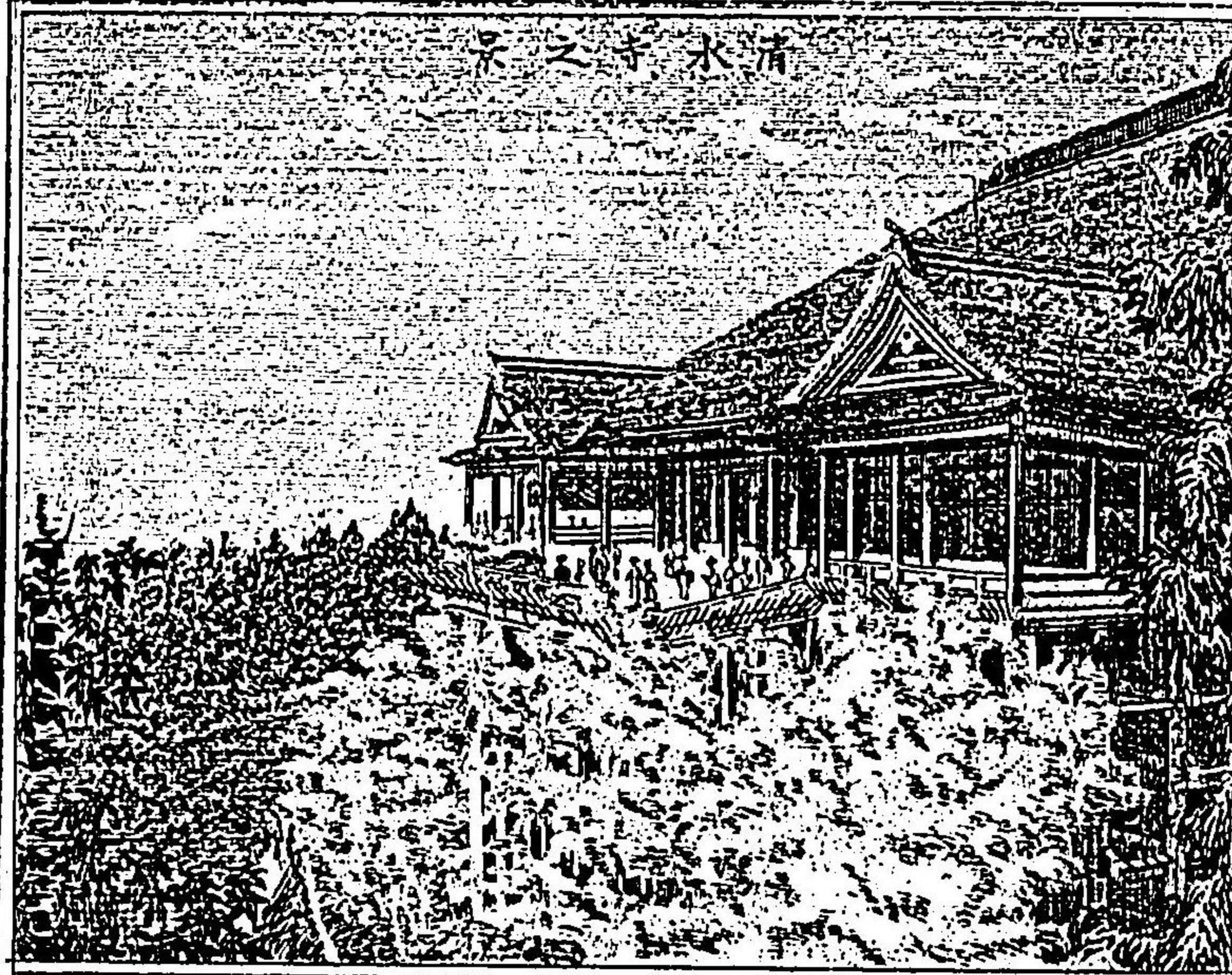
圓山長樂寺ハ華頂山ニ隣接する山にして
 前ハ祇園の杜真葛原梅園雙林寺の林叢ニ
 對シ高樓の宴席あり其名を也阿弥又正阿
 弥或ハ左阿弥藤の棚等かり春秋又書画會
 の類多ク此地又庭を設ク枕中構造の聳へ
 層樓の天を擎る如きハ吉水園の鏡泉場カ
 リ浴客每層室ニ滿ち此又一浴一層を下リ
 再び瀑湯ニ沐浴し更ニ三層樓ニ登リ跪坐
 テ西望すれば京都の十萬戸を一瞰し二條

趣實すべ
 堂又架ける復道ハ歩ニ應じて濤聲を發す
 奇巧あり此ニ客室あり千疊敷ト云庭造ハ
 巨巖奇石を壯照し綠樹花卉を栽たり其幽



華頂山知恩院之景

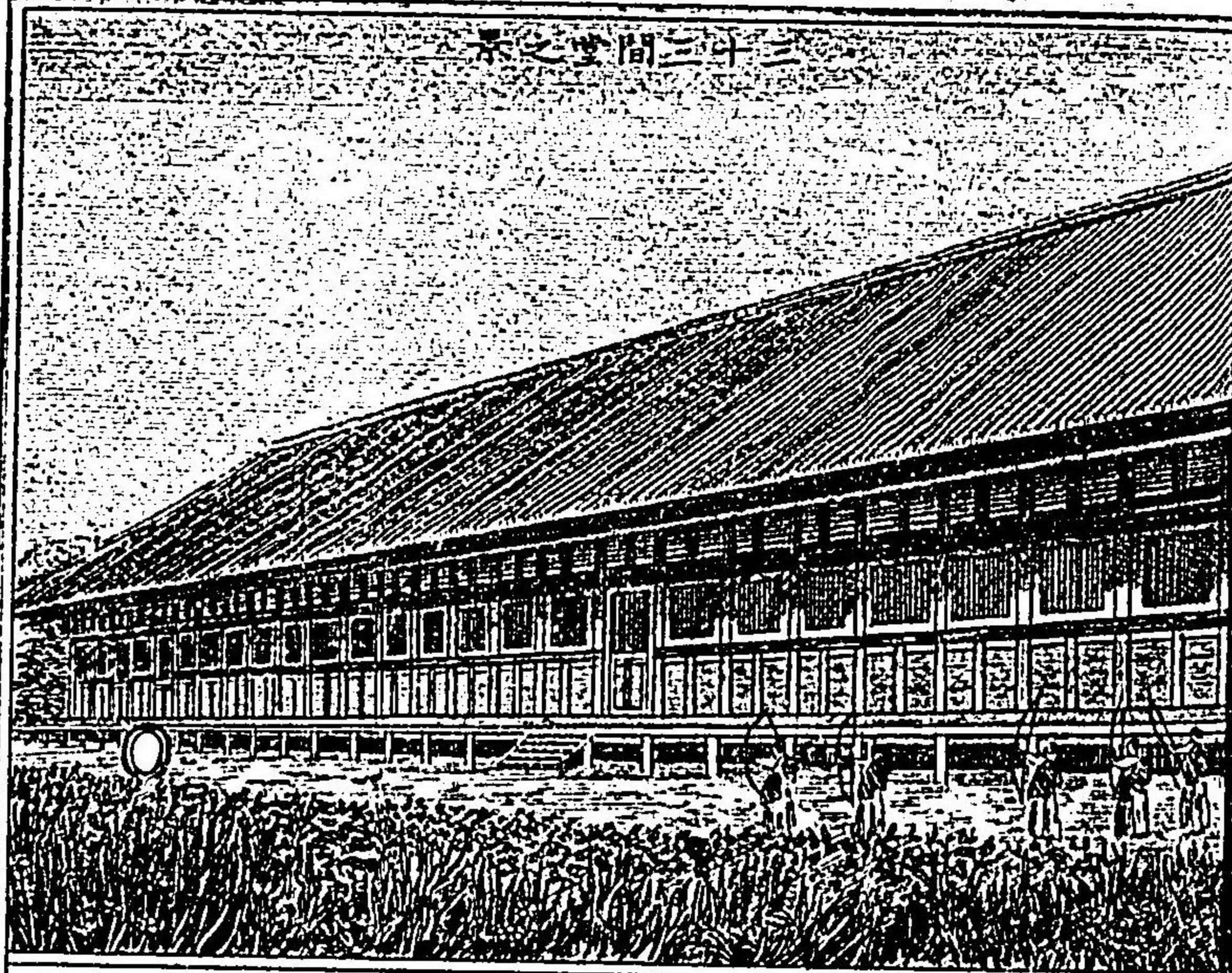
て麗艷春風台蕩花爛熳の候夜多少の照燈
 を照し遊客此ニ集ひ酒宴盛かり本社裏
 門より知恩院ニ杖を曳く順路かり
 華頂山知恩院ハ淨土宗の本山ニして其地
 域四萬三千坪宏壯の山門を構へ前路ハ一
 簇の松林ニして蹊路鬱蒼し寺境又櫻樹凡
 千章あり花時弥望せば錦を敷く如し爛々
 たる香雪地ニ布くその幽艷古人も是を稱
 しとり山門を過て石階あり教歩ニして堂
 舎峙ち右ニ梵鐘樓あり巨鐘ニして高さ一
 丈八尺巨り九尺一度是を撞ハ其響遠く浴
 中を過て西山ニ達ト水堂ハ圓光大師の像
 を安置額ハ後奈良天皇の宸翰かりト又後



清水寺は大同二年阪上田村麿の創建の觀音閣にして堂後の山頭は地主神社を祭祀し舞臺は縣涯に架し其基礎最も高く臺下を臨み目眩戰栗の心地せり音羽三條の瀑布飛流して溪間を流れり此境地櫻樹多く花候ハ關芳爛熳として錦繡を布が如く其幽艶ハ昔日平宗盛豊臣秀吉公も茲に感ずる起り鳥邊山ハ西大谷に至る通路あり時昔ハ高貴の人と雖も茲に葬すと云ふ



の離宮ハ霞の如く白雲横帯し東寺の宝塔ハ林上又雲を凌ぎ北ハ加茂二葉山西ハ愛宕嵐山の峯密南ハ旭の峯渡山岸の川瀬遙々眺望し流笛の聲ハ時々後山又響き京師第一等の遊觀場かり
東大谷ハ本願寺代々の廟所かり雙林寺又文阿弥てふ冥席あり其邊ハ西行庵芭蕉堂大雅堂の遺跡あり
高臺寺ハ豊臣秀吉公及び高臺院の靈舎或ハ時雨亭金亭の茶室ハ世人の知所かり寺境ハ往昔より秋萩多くして秋季遠近の文人雅客飄を腰し行厨を携へ此に花を賞し詩を賦し和歌を詠する人多し



景之間三十三

豊國神社ハ方廣寺大佛の境内ニ在リ豊臣秀吉を祀ル維新後の建築ナリ此の後山阿弥陀峯ニ廟あり又社の側ニ大佛の半像を安置す○耳塚ハ文禄元年秀吉朝鮮を征討し先鋒加藤清正及び小西行長等より敵兵の耳を斬り秀吉の寶檢ニ備じを此ニ埋め國威を不巧ニ傳ふ○三十三間堂ハ後白川天皇平忠盛ニ命じ建築じ千餘の觀音を安置す此堂南北六十六間あり背椽ニ時々射術を試る者あり東の方ニ○日吉神社○知積院○新熊野神社同觀音閣あり

泉涌寺ハ仁治年中四條天皇已降歷朝の陵廟たり後山ニ壯嚴ふるハ孝明天皇の陵カ



景之谷大西

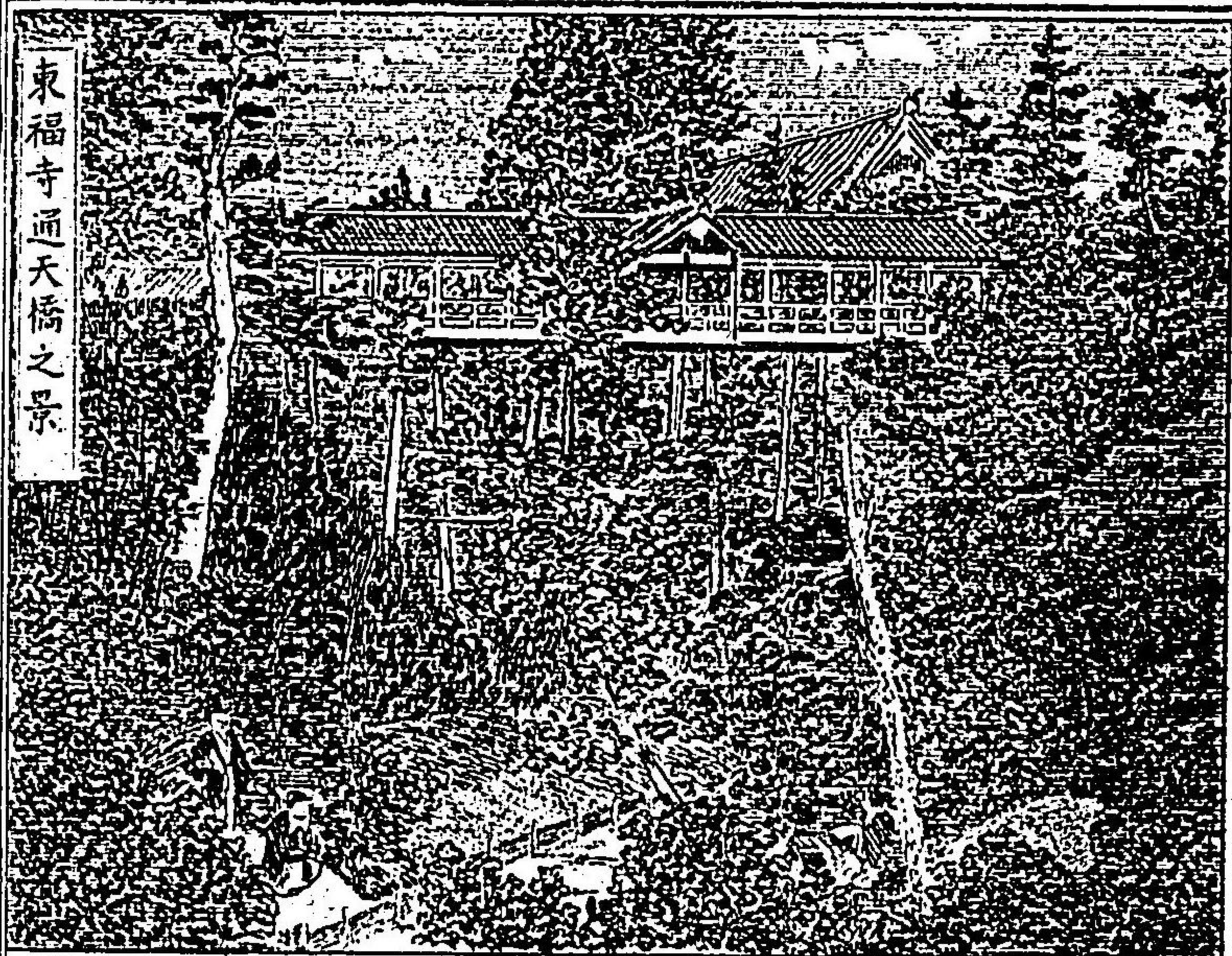
墓所なり麓ニ率の谷てふ處あり昔日景清を籠置し處なり○六波羅寺の大慈閣ハ空也上人の創建ニして此邊ハ平氏館舎の地ニして今ニ池殿町の舊名存せり

大谷ハ真宗開山親鸞聖人の廟所あり門前ニ石橋あり華剛石を以て架設し橋下ニ水路ニ穴を鑿ちたり故ニ世人眼鏡橋と云爰ニ躊躇すれば松の緑ニ花を交へ秋ハ林間ニ紅葉を照し四季の壯觀あり此路ハ五條大橋ニ通ず故ニ五條阪と云陶器製造盛の地其主長たる者を龜亭道ハ六兵衛と其名聞由建仁寺ハ禪宗五山の一ニして境地廣く老耨翁として堂舎宏壯なり

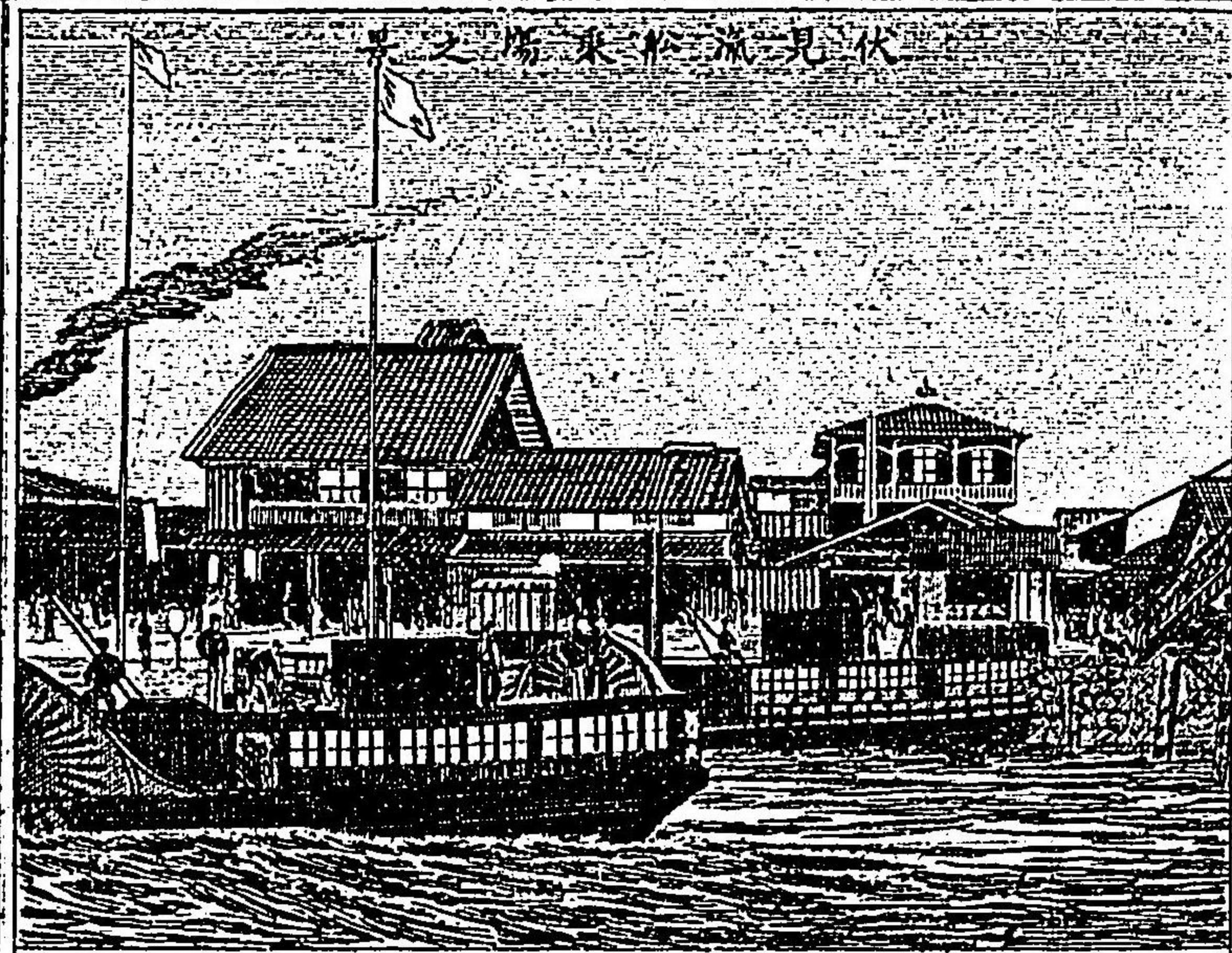


東福寺通天橋之景

又境地は靈泉あり頗る清冷なり寺寶の
 佛舍利は世に名高し當寺を出て伏見街道
 に向ふ両側の老松樹を列し路を雅し街道
 の一橋を渡り滝尾社の前より到るなり
 東福寺は禪宗五山の一として聖一國師の
 創建かり佛殿講堂の廊を通じ方丈樓門及
 び傳衣閣皆山岳に倚て構造す惜哉宏壯な
 る佛殿は近世火災に罹り烏有せり寺寶の
 涅槃像は頗る大軸として兆殿子の画世人
 の知る處かり
 通天橋は寺境の溪川に架設せる廊橋かり
 秋季ハ紅葉霜に飽き紅錦爛々と清流を隔
 て瑤瑤目を奪が如く文人騷客ハ溪間の棚
 欄に倚り盃を傾け其幽趣を愛し詩歌の秋
 興を賞す勝地なり
 石寶寺は石像の五百羅漢を安置せしが今
 其半を滅す○寶塔寺は日蓮日朗上人の遺
 骨を収むる石塔あり此地を深草と字す
 賈谷てふ梅園あり小町を廻し少將や歌道
 又名を得し元政の舊趾あり○嘉祥寺の觀
 喜天○藤社社の例歳六月五日氏地の人々
 カ甲冑を着し競馬の式あり社前より東に向
 官路あり大龜谷と云字治や山科に至るの
 通路かり○西本願寺抵所ハ花山村の東在
 大石良雄隱棲の舊趾寺となり四十七士の
 碑文あり○上醍醐及び醍醐寺ハ觀音閣や



又境地は靈泉あり頗る清冷なり寺寶の
 佛舍利は世に名高し當寺を出て伏見街道
 に向ふ両側の老松樹を列し路を雅し街道
 の一橋を渡り滝尾社の前より到るなり
 東福寺は禪宗五山の一として聖一國師の
 創建かり佛殿講堂の廊を通じ方丈樓門及
 び傳衣閣皆山岳に倚て構造す惜哉宏壯な
 る佛殿は近世火災に罹り烏有せり寺寶の
 涅槃像は頗る大軸として兆殿子の画世人
 の知る處かり
 通天橋は寺境の溪川に架設せる廊橋かり
 秋季ハ紅葉霜に飽き紅錦爛々と清流を隔
 て瑤瑤目を奪が如く文人騷客ハ溪間の棚
 欄に倚り盃を傾け其幽趣を愛し詩歌の秋
 興を賞す勝地なり
 石寶寺は石像の五百羅漢を安置せしが今
 其半を滅す○寶塔寺は日蓮日朗上人の遺
 骨を収むる石塔あり此地を深草と字す
 賈谷てふ梅園あり小町を廻し少將や歌道
 又名を得し元政の舊趾あり○嘉祥寺の觀
 喜天○藤社社の例歳六月五日氏地の人々
 カ甲冑を着し競馬の式あり社前より東に向
 官路あり大龜谷と云字治や山科に至るの
 通路かり○西本願寺抵所ハ花山村の東在
 大石良雄隱棲の舊趾寺となり四十七士の
 碑文あり○上醍醐及び醍醐寺ハ觀音閣や



伏見川見流松水場之景
 喜撰法師ハ朝日山又幽棲し○真聖寺門前
 の阪路を琴坂と謂ひ歎冬の名所あり此地
 ハ夏日螢多し○縣社や宇治橋の邊は菊屋
 或ハ萬碧樓の宴席あり此より宇治川の流
 又添長堤を歩し伏見又向ふ○製鉄場ハ宇
 治川の水勢を力借て機械車を運轉し西
 洋式諸器の製造日々盛なり○觀月橋ハ舊
 と豊後橋と云京都より奈良へ至る官路な
 り橋北又指月山月橋寺共觀月の名勝な
 り城山ハ文祿年中秀吉の築く處石田三成
 が兵變し籠り馬有せり此邊ハ梅桃多く花
 時ハ淡粧掩映して頗る嬌然たる雅地とな
 る此又宇治見臺てふ所あり爰又踏れば宇



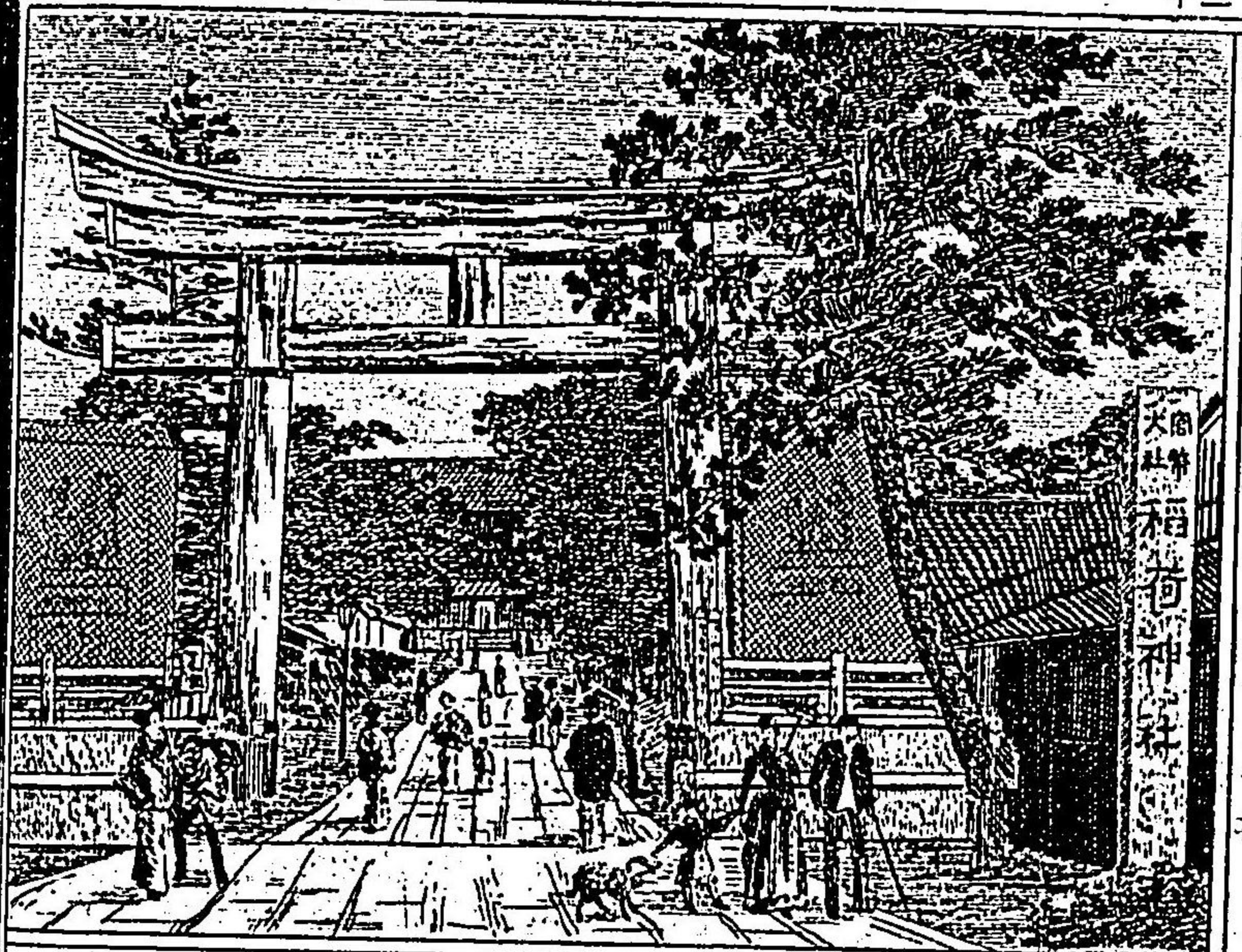
豊臣花見の遺蹟あり○日野樂師の山頂ハ
 大阪大川の三橋を遠望するの光景ハ絶佳
 かり
 黄檗山萬福寺ハ支那寺の構造唐僧隱元和
 尚の開宗○三室戸の觀音閣や木幡の里○
 宇治郷ハ鬼道雅郎子仁備居の地明恵上人
 宋朝より茶の種を齎し方今貿易の一品と
 成る茲又明治廿年製茶紀念碑を平等院の
 寺境に設立す○平等院の構造ハ鳳凰の姿
 又造築し廻廊を羽翼の如く作りとり治養
 四年源頼政平氏の軍又敗北し此又自害し
 たり其古跡とて扇の芝を存したり蜻蛉石
 ハ紫式部の旧趾あり○離宮八幡○惠心院

OTOKOYAMA HACHIMAN



曲折屏立し躋るよと十有餘町にして天然石又弥勒佛を彫刻す其高さ十間余幅五間計り又虚空藏石其高さ八間丈珠石ハ高さ五間計り又千手の胎内潜とて開裂數丈燦然として屈洞をなす此を窺ふは深暗なり此間ハ怪石阜並して奇觀なり此山麓より月瀬の通路あり月瀬の記ハ大和の部を見るべし鷲峰山金胎寺ハ相樂郡ニ在て大和伊賀又隣接す高嶺なり役小角天竺の靈鷲山を模倣し養老六年の創建山嶺ニ奇石多し男山八幡官ハ樞峯鎮座官幣大社又し應神天皇を祀る貞觀の創立なり坂路ハ石階七曲を成し社殿ハ巍々として壯麗を極なり

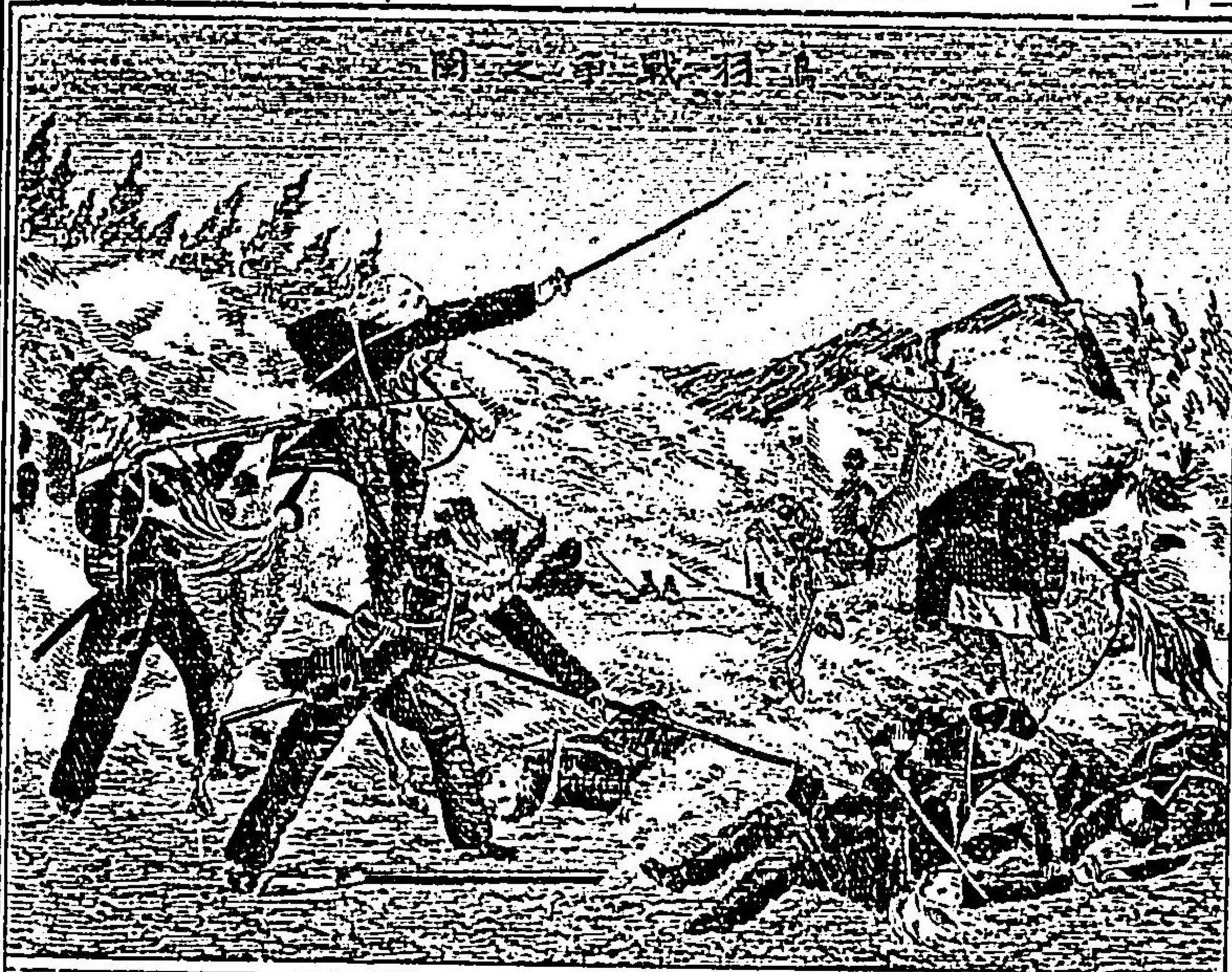
FUSHIMI INARIJINSHA



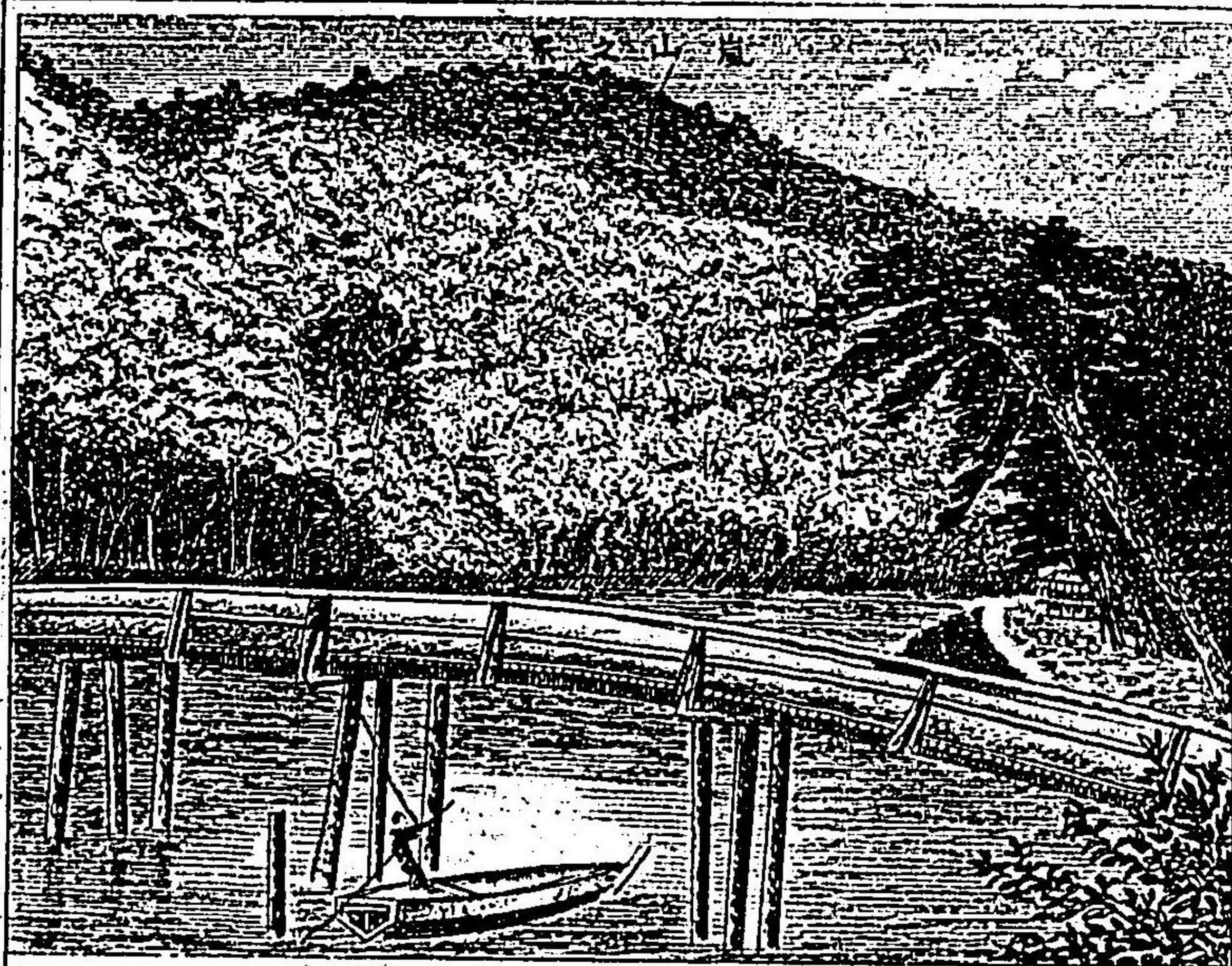
治川の緑を凝して觀月の長橋及び巨椋湖を眺望して風光賞すべし伏見驛ハ大邑にして三所の遊里あり墨染撞木町中書嶋と云此濱より日々淀川通の蒸氣船を解纜し大阪八軒家ニ到る巨椋湖の其周廻四里ニ及び中央又一徑を通じ官路とす夏日ハ小松又乗じ逆花河骨の花を愛し氷尙の游戲も亦一興あり東又堰手の玉川とて山吹蛙聲の古歌多し笠置山寺ハ天武天皇の創建にして後醍醐天皇當山ニ皇居の時楠正成足利の征討を拜命す此時堂舎ハ兵燹ニ罹り烏有せり此山木津川の水源又して其山路ハ極て峻阻



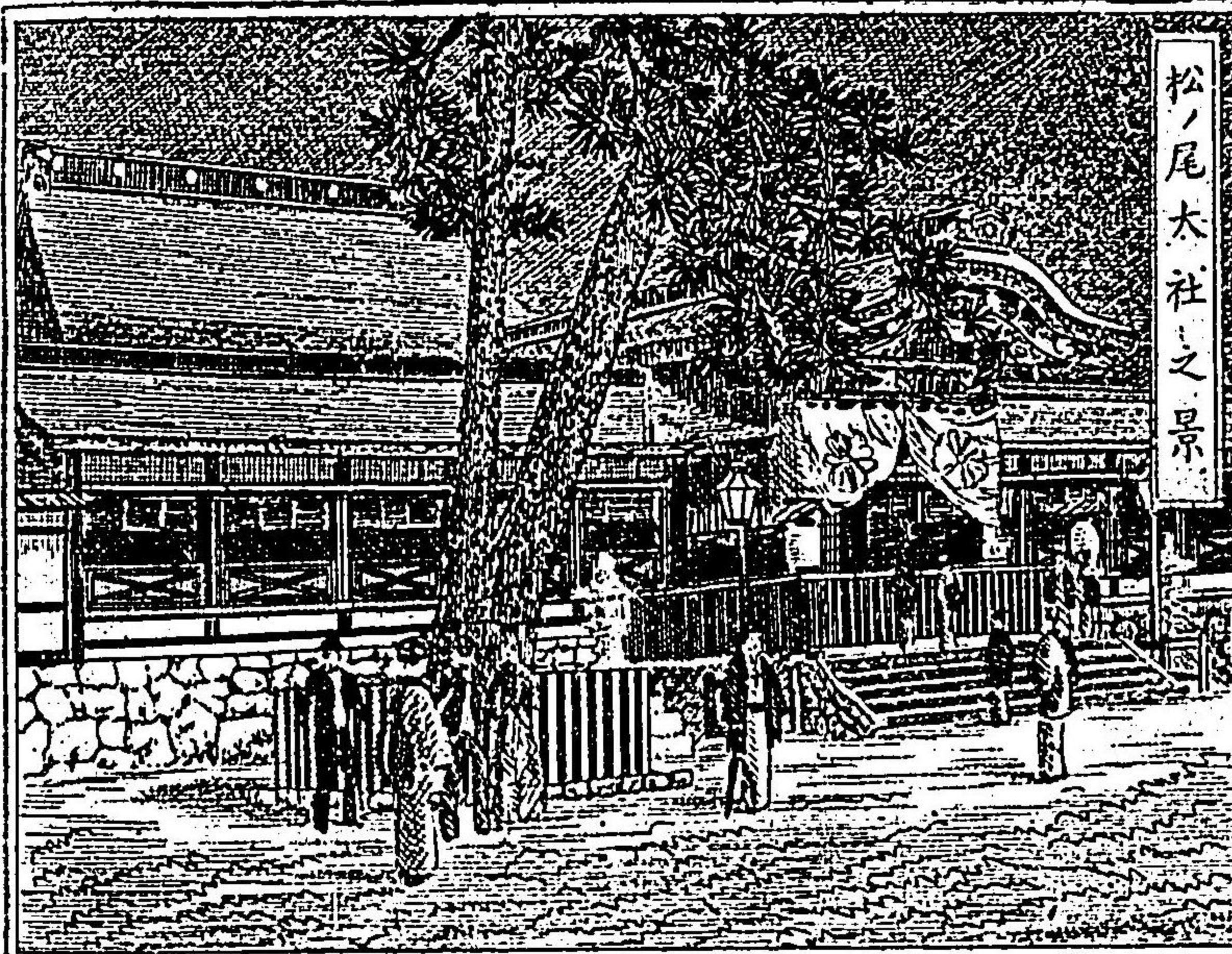
入京を催促し明治元年一月又會桑先鋒し
 伏見鳥羽の関門を逼り開路を示せども薩
 長兵士の防禦して開かねば會桑勢ハ堪兼
 て銃砲を放ちて進撃し搦戦數刺及び死傷
 ハ多けれど勝敗決せず日ハ暮ぬ互軍を
 引上りて賊軍越て兵糧を喫せしが此夜三更
 官軍突然賊軍屯所を攻撃し即時に勝利を
 決し此又征討將軍仁和寺宮錦の御旗を翻
 翻し國威を示し今泰平の御代と成りけ
 る
 長岡天満官ハ開田村に在り傳へ云菅公太
 宰府に移り玉ふ時祐房餘波を暴て御姿を
 此ノ馬とぞ社頭ハ岩間躑躅多く花候ハ赫



社後又琴堂とて四脚の亭あり此又越びて
 前山を瞰れば天王山と對し麓ハ瀛車の往
 復黒煙横帯して絶へず淀川の清流は白帆
 點々泛みて山河の光景絶佳なり
 離宮ハ幡宮ハ山崎停車場の側あり明治
 戦争の兵火は罹り方今仮殿なり○觀音寺
 ハ天王山寶寺と並列す此邊ハ天正年中光
 秀信長公親子を弑したりし時秀吉西國よ
 還り爰に戦ひ光秀を討て擾乱を鎮たり
 慶應三年冬徳川慶喜時勢を歎じ將軍職を
 奉還上書して大阪城に籠居し朝旨を待諸
 藩の動靜を窺ひける又朝廷會議は内府を
 漏したり會桑の二藩ハ此を奮激し内府を

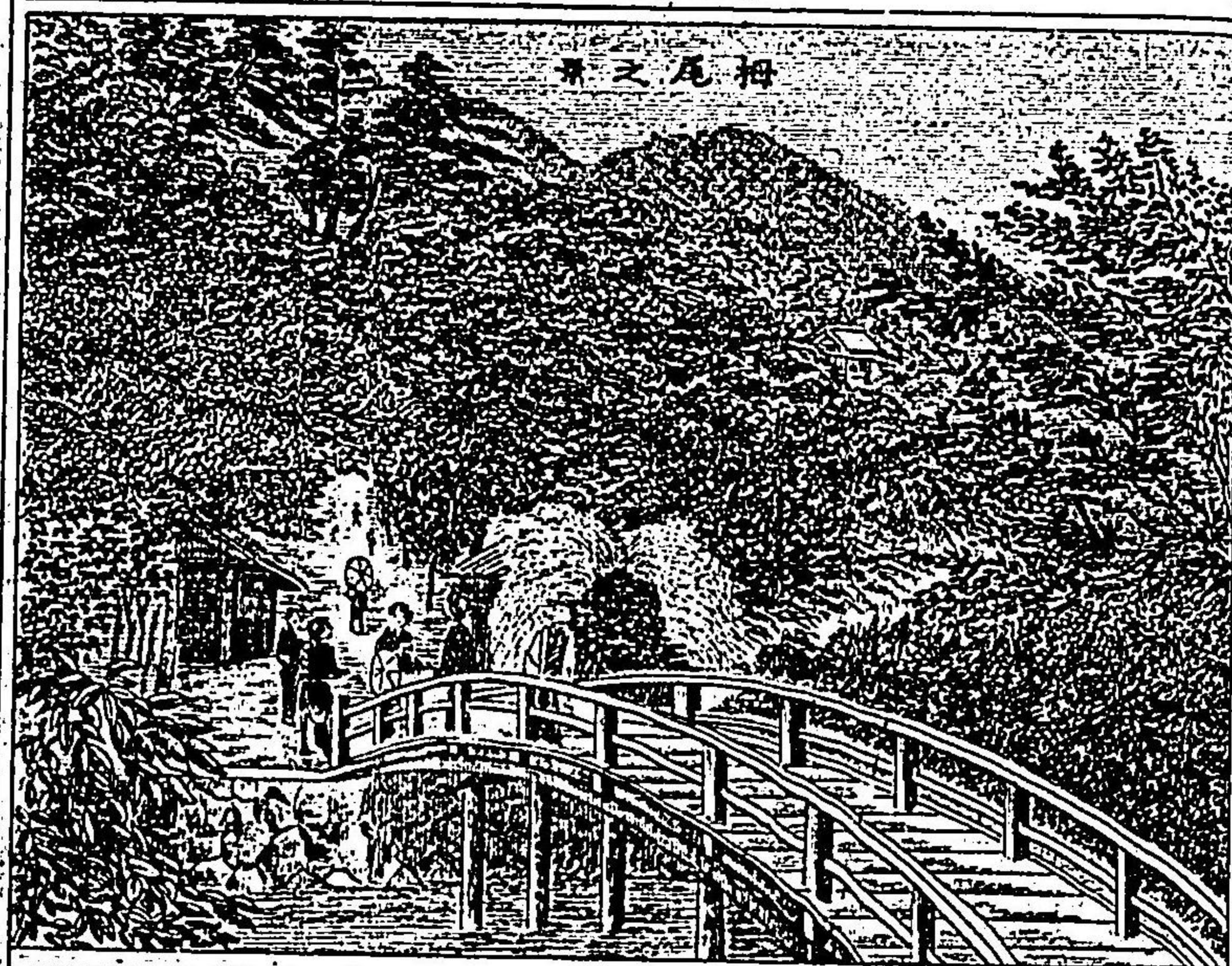


公秋ハ虫音妙又して雅人爰又集ふ松尾社
 ハ官幣大社祭神大山昨神大寶元年の創立
 當社ハ酒造の神と稱し賽入多し梅宮ハ酒
 解尊を祀る社地梅櫻多し壯麗なり製紙場
 洋紙製造日々盛なり
 嵐山ハ龜山天皇の御宇和州吉野の櫻を移
 栽今又絶せず公園と成る其山河の光景た
 る満山櫻樹多し翠松楓樹を混交し麓又大
 堰の大河碧水漾々し渡月橋を虹架して四
 季の景致ハ欠されど花候ハ最モ艶麗賞可
 酒樓ハ山又對して洋風又構造し月雪花や
 杜鰯の名を附して縉紳公子の宴席又備へ
 たり或ハ河涯又添て榻を並べ雅俗の休憩



松ノ尾太社之景

々美觀なり社前の池ハ廣くして中央又一
 徑を通じ賽路とす池塘ハ梅櫻楓樹多し
 て光景閑雅なり向町明神○粟生の光明寺
 ハ浄土宗西派の元宗當寺の構造體格ハ殊
 又精巧又して工人等摸範とす柳谷觀音閣
 又世俗ハ眼疾治癒を祈りける
 善峰觀音堂○三姑寺ハ柳谷の北又して此
 山嶺を髪ヶ嶽と云山頂ハ平面又して京都
 及び大阪奈良の大佛堂を遙望するの絶景
 あり○西岩倉○小塩山勝林寺ハ花の寺と
 云西行法師の古跡あり○春日社ハ大原野
 村又在り○榎原ハ京都七條の西又して此
 地前ハ郊原後ハ高山聳へ春ハ鶯聲夏ハ郭

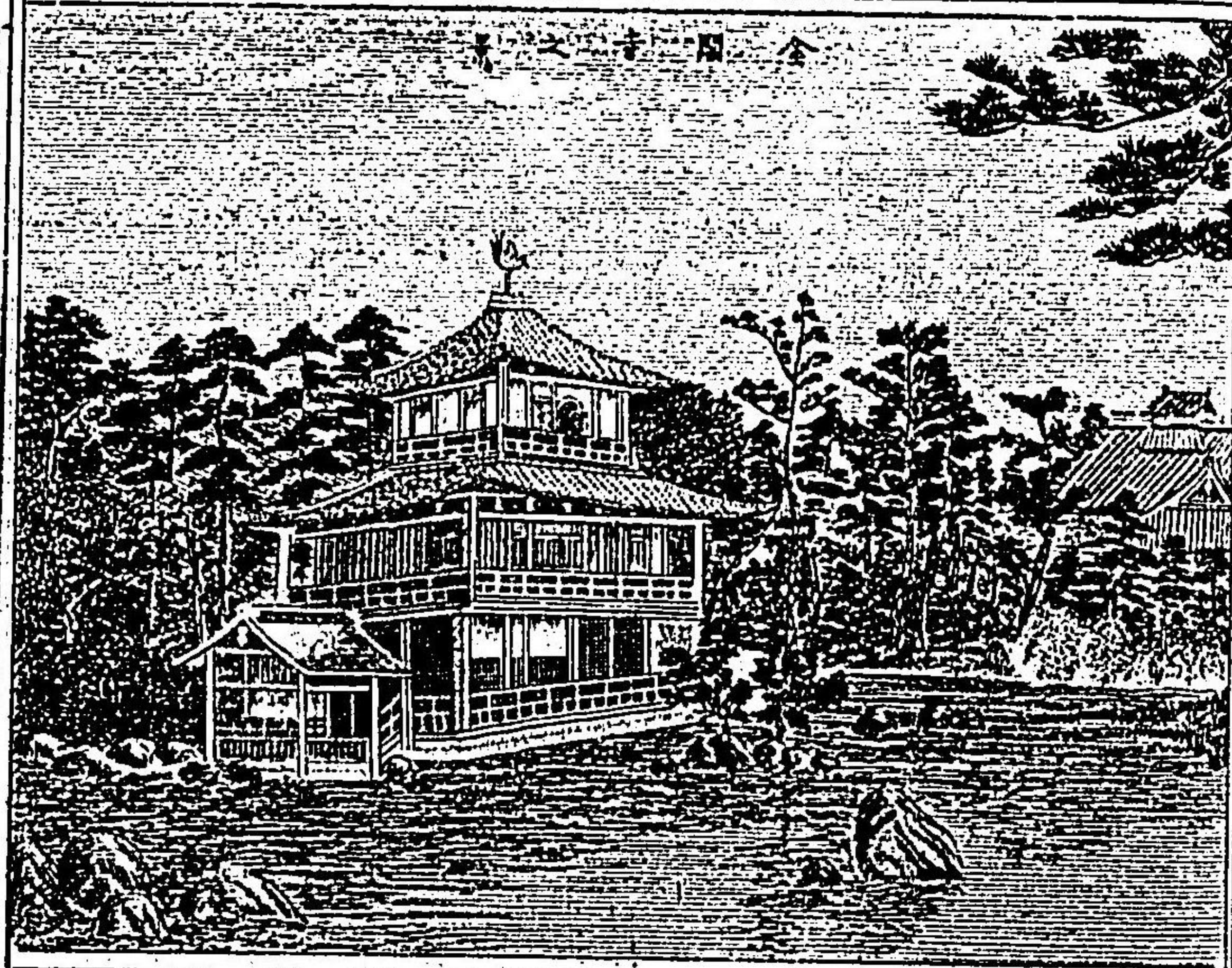


三尾之尾相

浙々巨巖を凌で流とり茲は旅舎七八戸あり山路又躋れば石階重疊一巨石倚破牙角を磨し相逼て古樹蔭翳し七八合又遠して杖を駐て顧視すれば連峰波濤の如く大堰川は山峽又間断して其流を隠し遠く京洛の萬戸を弥望して又丹波を一眸又衆より山嶺又躋れば華表あり顔面又朝日山の字を印す此邊ハ白雲常又眠又遮り炎暑の候と雖も温熱を知らずとや○月輪寺ハ九條関白閑居の地時雨の櫻とて奇木あり三尾の地ハ楓樹又富たるは州内又冠絶す世人ハ唯高雄及び植尾を以て噴々美稱すと雖も雅趣又至てハ梅尾の光景頗る絶佳



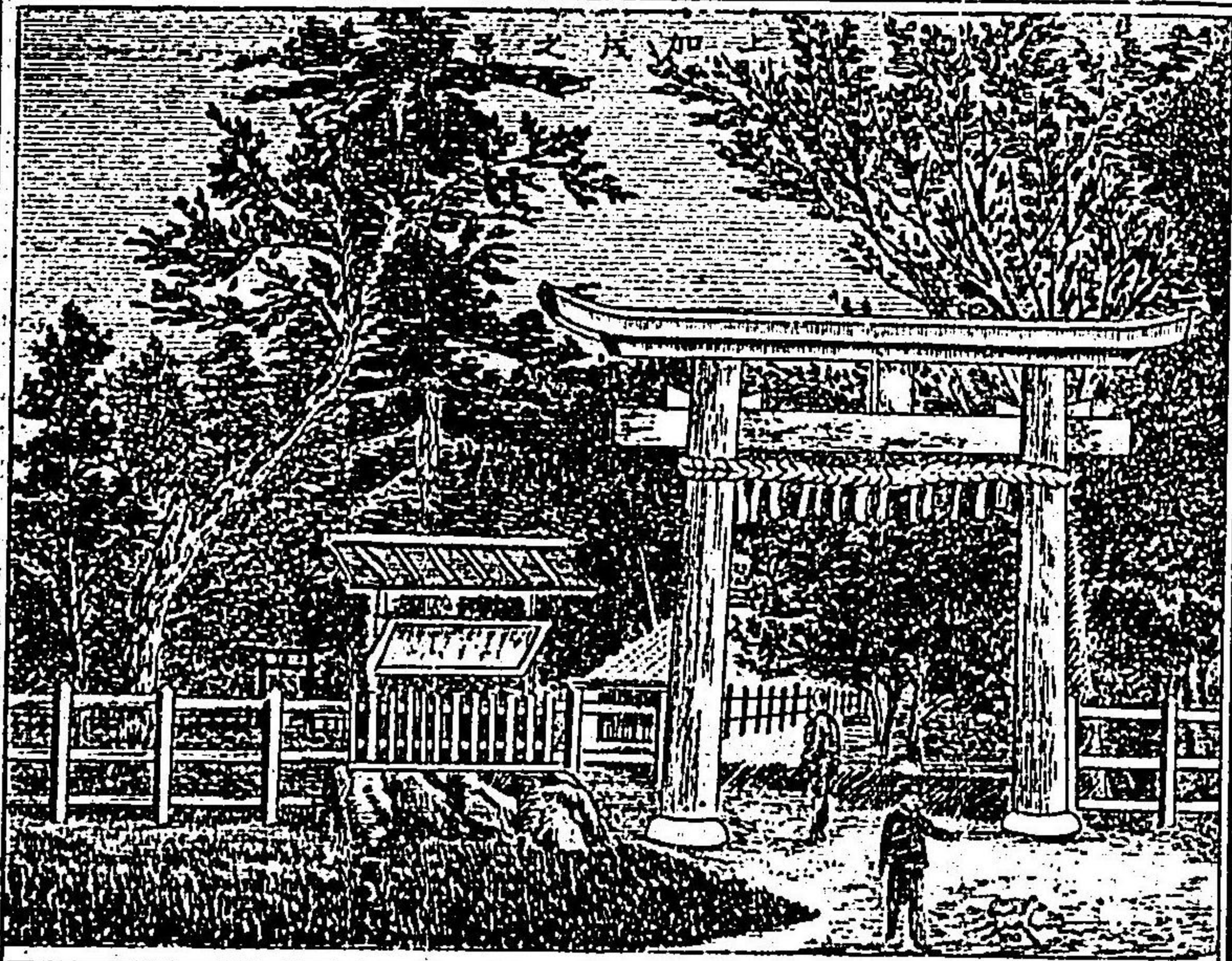
又供たり遊宮絡繹織如く或ハ小桐ニ掉さして戸無瀬の瀑布や千鳥淵燕の龍を看過して保津川又廻り鑛泉又浴する人もあり其樂を恣にする雅遊の勝地なり○法輪寺ハ虚空藏佛を祀り○藏王堂の山嶺ハ京師眺望の好景あり○二尊院の後山を小倉山と云崎昔定家郷百人一首の和歌を選し此邊九て嵯峨野とて風流士女の隠棲せし處なり清凉寺の釋迦堂や○廣澤の大池ハ北又衣笠山峙ちて觀月の名勝とて古歌又愛宕山ハ伊弉册尊雷神を合祀す嵯峨より阪路六十町初路又鐵の華表あり試阪を越ば青龍ハ溪間又飛橋あり渡猿橋と云間水



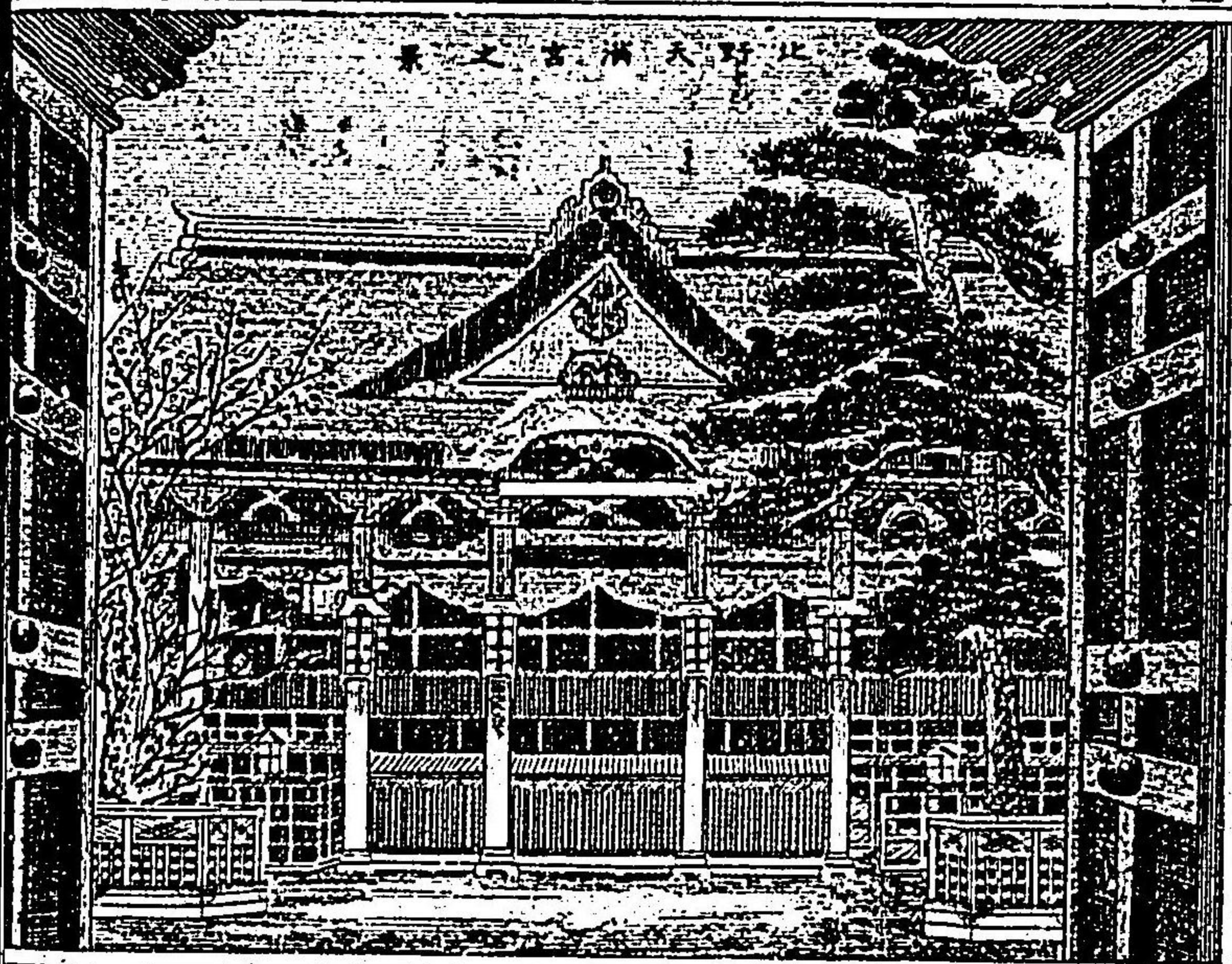
ハ重瓣嬌然と其根脚より横蕨して開花ハ
 天々爛熳と咲濃淡冷心錦綉を布く如く頗
 る美觀なり貴族や雅人が集ひ来て愛嬌ハ
 錦を競ひて、行厨酒酌を勢へて春の誤樂
 を為かや○妙心寺ハ禪宗の巨刹にて境地
 の松ハ美觀あり此ま西又双岡てふ處あ
 り歌僧無好が古跡かり○龍安寺ハ鴛鴦
 名あり○等持院ハ尊氏の建設效足利累
 世の木像あり維新前勤王の浪士此首級を
 取て三條河原又梟首せり
 金閣寺ハ鹿苑とて尊氏の山荘にして後世
 寺と成る林泉の景致たるや喬木苑閣を掩
 擁し三層の樓閣あり初層を法水院と號し



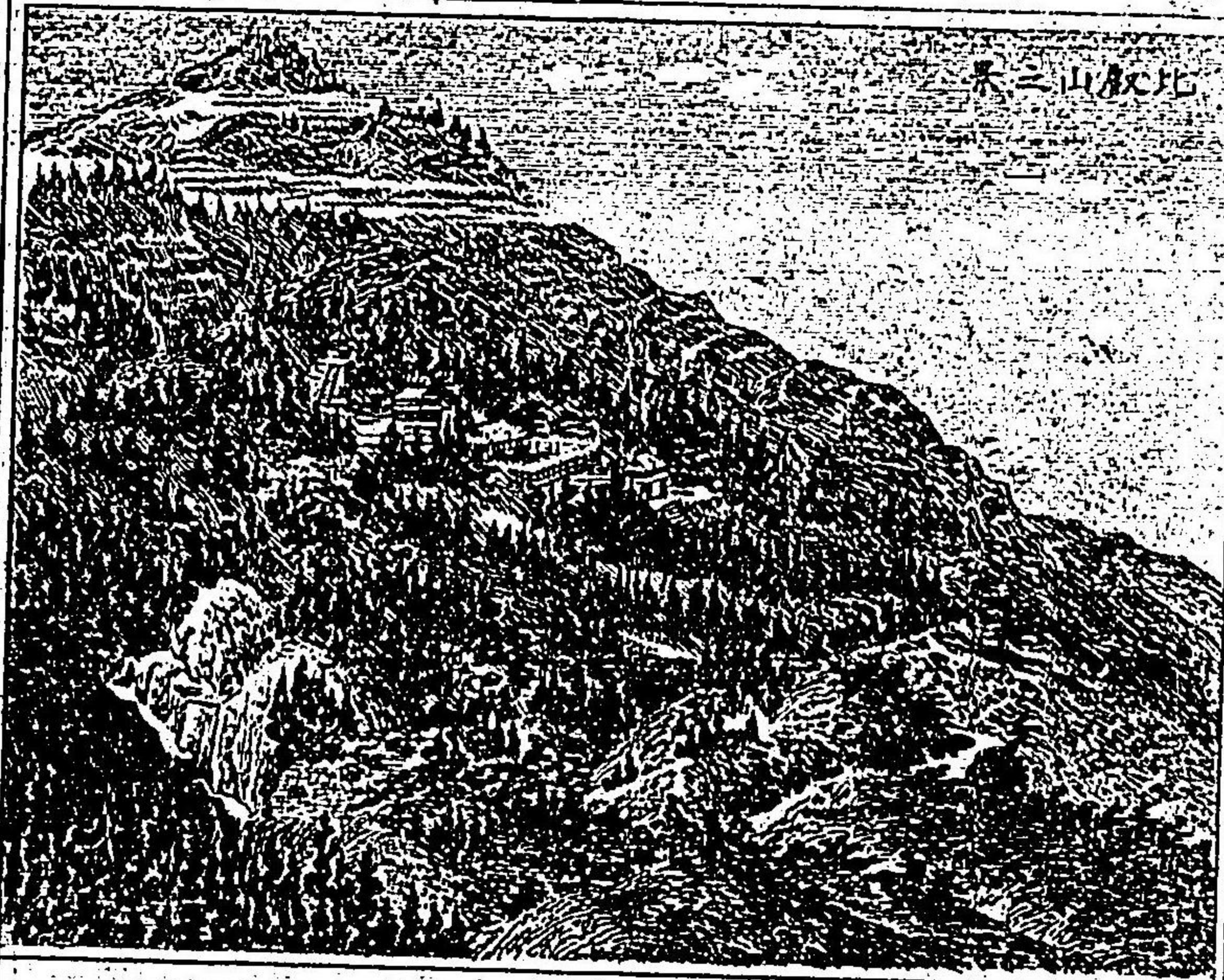
なり此地たるや山谷幽邃として澗水曲折
 岩涯を繞り其響ハ操琴に似たり楓樹千章
 山谷に措篋し紅葉恰も蜀錦を織る如く板
 橋あり白雲橋と云橋下ハ奇石最多し水勢
 巨石に過られ激して玉を碎き潭水ハ停蓄
 してハ青靑深るが如くなり橋を歩し山徑
 又踏れば梅尾の梵刹あり境地ハ高く清潔
 全地の景勝ハ盡く眼下一圓に眺望し秋
 興ハ頗る濃の勝地なり
 御室仁和寺ハ真言宗山門ハ宏壯な境地廣
 く十萬坪又充てり堂塔伽藍全備せり往昔
 より櫻樹夥多し效又一奇あり其高さ丈余
 又満ず一株數幹屈曲して枝ハ垂が如し花



社域廣く清潔にして夏日ハ夕納涼ありて賑へり
 大徳寺は紫野ニ在り堂舎宏壯閣千利休の寄附又真珠庵ハ一休和尚の住坊遺物を存雲林院ハ淳和帝の行宮僧正遍昭又給て寺と成る○建勲神社ハ織田信長の靈を祀る維新後茲ニ建設す○七社○白峰神社祭神ハ崇徳天皇明治元年神靈を讃州より遷し奉りこり
 上加茂神社ハ山城國の一宮加茂皇太神別雷神を祀る天武天皇白鳳五年の創建なり社前の清流を御手洗川と謂社地廣くして嚴整なり○黄布祢社より鞍馬へ出る



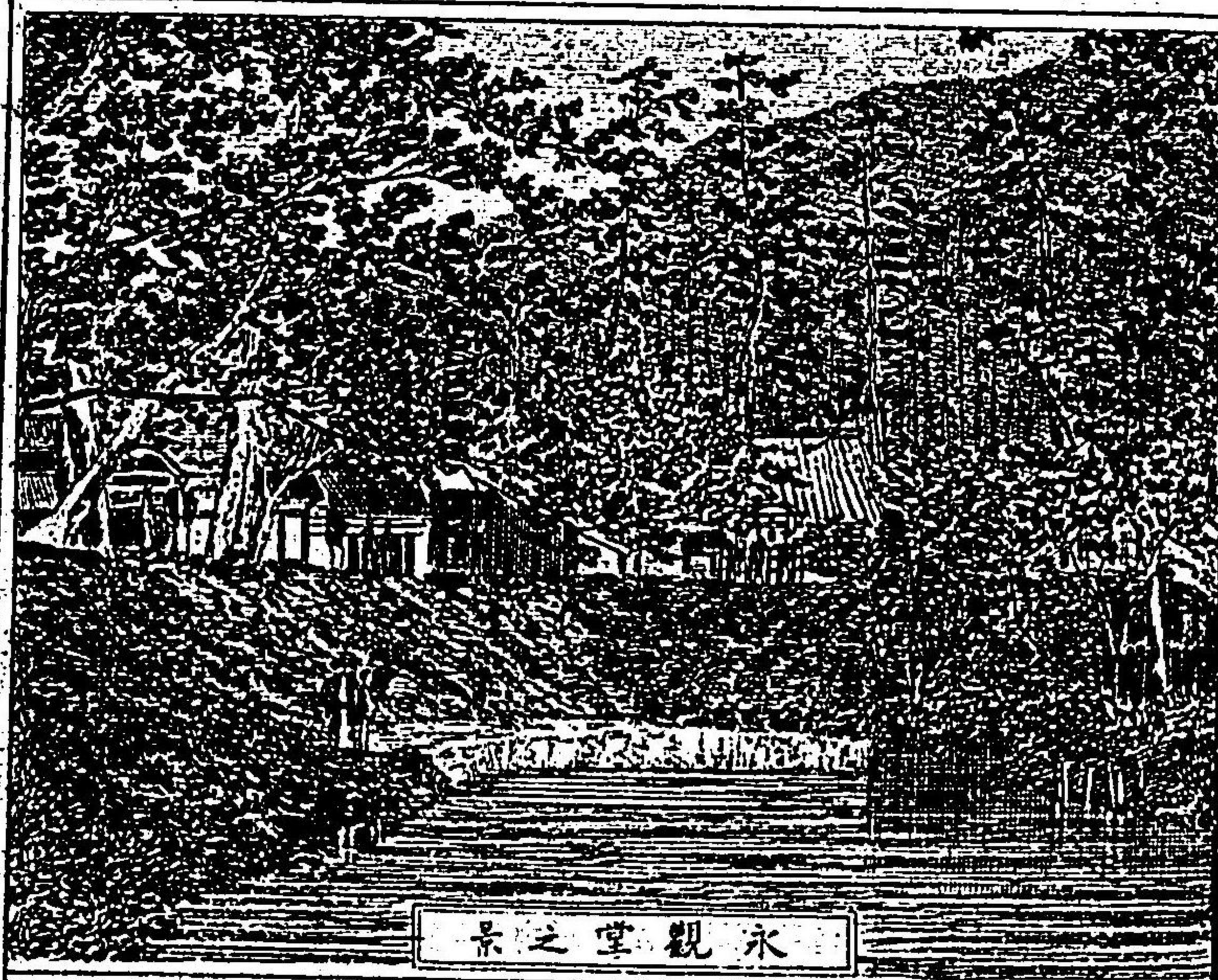
阿弥陀佛を安じ第二層を潮音洞とし第三層窮意頂と云天井ハ三間角の一枚板を以て造り四面又金箔を貼じ後小松帝の勅額を揚たり又閣前又池塘あり鏡池と云奇石巨巖を以て粧飾し茶室の柱ハ南蜀樹とし其太さ二握あり
 北野天満宮ハ天歷九年の創建今の社ハ豊巨秀頼の建設なり神前ニ大鏡あり裏面又日本國の圖を印す加藤清正の寄附する所社域廣寛として攝社末社多し賽入常ニ絶ることなし宦祭八月四日近時再興あり行装美なり○釋迦堂ハ當社の東、焰魔堂ハ南又あり今宮社ハ素盞鳴尊稻田姫を祀る



筆紙に盡難し○詩仙堂ハ一乗寺村石川大
山茲に隠棲し居室の四面に額を列ね唐末
三十六氏の詩人の像を画き自ら詩賦を書
し樂なる遺蹟なり此より山端を経て八瀬
に出づ爰に比叡山の西麓として西塔又躋
る初路あり
比叡山ハ山城近江に跨る大山として桓武
天皇延暦七年傳教大師の開宗往昔ハ三千
坊ありと先づ初路を八瀬村より登る阪路
ハ屏立の如く曲折崎嶇として躋り難く此
に銳意を盡し漸々西塔に到れば老叢喬松
鬱々と掩擁し頗る冷氣を覺たり茲に相輪
塔あり裝飾するに黄金を用ひて美觀なり



鞍馬寺ハ毘沙門天を祀る源牛若丸住せし
東光坊の舊跡あり僧正谷牛若丸法を練
磨の趾とて岩石に刀劍痕を似たる破裂の
石あり是より静原峠を越て大原郷に出づ
し寂光院ハ高倉天皇后建礼門院關居の地
此頃白川上皇御幸ありとりとかや
修學院ハ後氷尾天皇の離宮として上下の
花苑あり下花苑の亭を晴月觀と雲林泉ハ
櫻及び楓多く上の花苑は山に倚る亭を鄰
雲亭と謂林泉ハ較廣く此池を浴龍池と云
奇巖怪石を用て庭造し池中に嶼あり茲に
止々齋或ハ窮遠軒の二亭あり橋梁を架せ
り池塘に翠松櫻花楓樹多く其清趣幽遠ハ

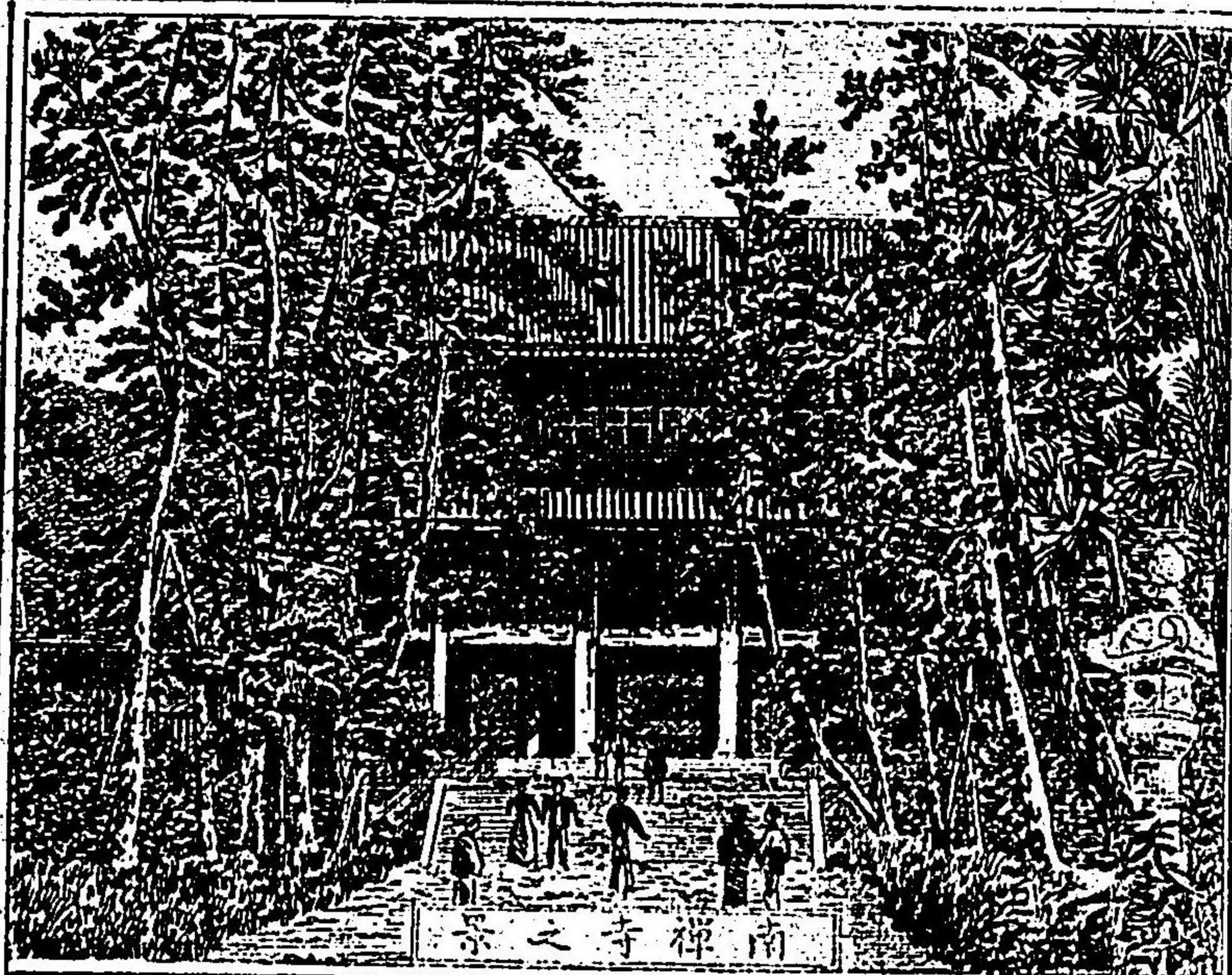


永観堂之景

又は音羽の瀑布其高さ二丈有餘とす此邊
 ハ華剛石を産出す里人の石工を營業とす
 銀閣寺ハ足利義政の別業として逝去の後
 又寺と成る苑裡ハ緑松園擁して二層の樓
 閣あり上層を心空殿とし下層を潮音閣と
 云苑池又ハ迎仙龍背の二橋を架設し池塘
 落照岡として躑躅多く銀沙灘又向月臺の一
 亭あり凡て庭造ハ奇石を集め其形状又目
 て銘を附し茶道四時の觀をなす又後山を
 如意嶽と謂ふ此山腹又皇居又對し巨大の
 大字形の堀を成し列歳八月簾を照す初晝
 の一點九十二間あり
 鹿谷ハ靈鑑寺の前を東又躋り致又淡合谷

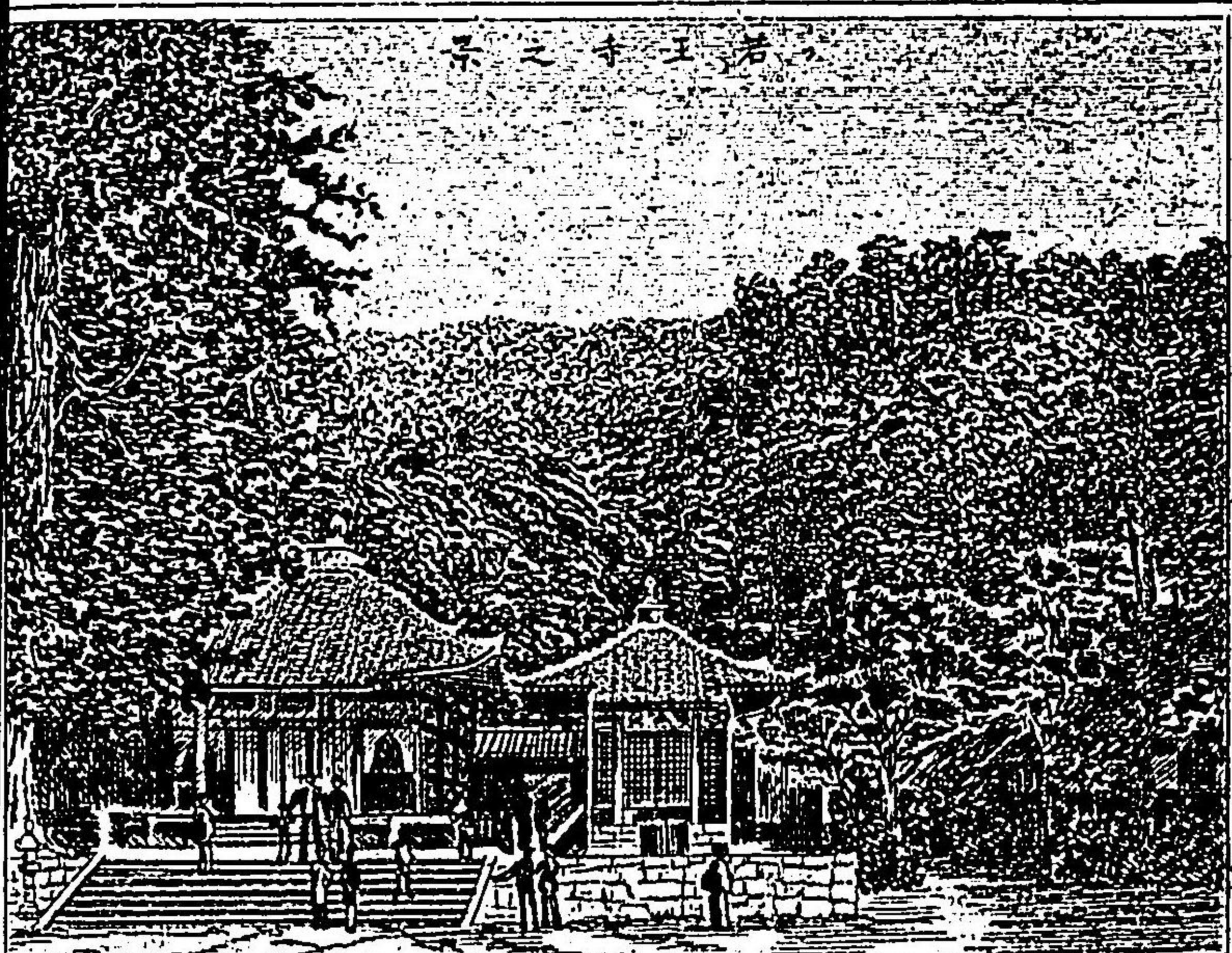


横川ハ江州坂本日吉社又達る路あり此
 を奈良坂と云是より山嶺四明嶽又躋り眸
 を遠近又放てハ花洛の萬戸羅列して瑞霧
 淡相映帶し千岳萬峯此を圍雍し遠く西海
 を瞰る儲東北ハ琵琶湖を一向又觀る青靄
 染又異ならず竹生嶋及び沖嶋ハ湖上又浮
 嵐松黒烟を吐て去來し舟少の漁船ハ蚊蠅
 の乱飛乎と疑ふ比良三上の山峰ハ霧々
 湖外又時々弥望の風光飽されど高山久く
 駐り居難く歸路を東塔又廻り中堂講堂及
 び戒壇堂を経て無動寺又到る此路頭ハ湖
 上を眺望して景致絶佳なり不動堂や辨財
 天の祠を過て雲母越坂又杖を曳き白川村



南禅寺之景

黒谷ハ浄土宗の本山として堂舎宏壯の巨
 刹として東山は三層の寶塔あり文珠佛を
 安す○真如堂の境地ハ櫻楓共賞観あり
 吉田神樂岡齊場所の本社は八角構造の萱
 葺として日本大小の神祇三千余座を勧進
 し○百萬遍知恩寺境地の櫻ハ美観あり
 下加茂神社ハ官幣大社として御祖神玉依
 姫を祀る蹊路鴨川荒神橋を虹架し喬木森
 々河合神社あり櫻馬場ハ花候麗艶たり
 華表を経て樞門ハ其構造燦然として回廊
 を擁し社殿ハ整然美麗なり社東ハ紅森あり
 靈泉を涌出す此下流を御手洗川と云ふ
 河涯又沿て寔席軒を列べ板橋を架し盛夏



若王寺之景

とて往昔俊寛が山荘の地茲に樞門の瀑布
 あり高さ九丈幅壹丈此山ハ嶽嶽隣接し
 白雲嶺頭ニ遮り人跡稀有の地なり
 若王寺熊野神社の山中又瀑布あり紀州那
 智の瀧を模擬したり盛夏避暑或ハ紅楓の
 候雅俗此又遊觀集ふたり
 永觀堂ハ龜山帝離宮の地境池の林泉を驚
 池と云此地紅楓又富其葉姿各異として色
 も亦種々又添る銘木あり秋季ハ錦繡を布
 し如く艶麗なり雅俗楓觀の勝地とす
 南禅寺ハ往昔龜山法皇閑居の地六萬三千
 坪の巨刹なり堂舎宏壯山門の前ハ巨大の
 石燈一基あり近世癩狂院を方丈室又開く

新島襄之像



郷に汲びんとせしが幸にして一生を萬死の間は快復するを得たりと雖も爲め又大に軀の健康を害し學業上障礙を受るゝと極て妙しとせず然れども苟し學業の餘暇あれば必ず諸州を歴遊し山河を跋涉し務めて建國の規模を探り風土人情に通ずるを以て事とし到る處の大

て最も美觀なり今同校設立の主意書を友人に求め之を一讀するに此基礎として今日之結果ある感に堪へず聊か世を益するものなるを以て尤も全文を掲ぐべし
幕政の末路世運傾危人心動亂の時又際し襄は海外遊學の志を懐き脱藩して函館に趣き暫く時機を觀察してありしが元治元年六月十四日の夜半時國禁を犯して米國の商船に搭じ海上幾多の困苦を嘗め一年の星霜を経て米國に到着するを得たり爾來益々志を決し他日大ニ我邦の爲に竭すべしとあらんと欲し遂にアムホルスト大學に入り日夜學業を淬勵せしが未だ幾年を経ざるに數々篤疾に罹り形骸空しく異

同社之圖



納涼の遊地とす其趣たるや四隣の大樹蔭蒨し炎熱の日と雖も涼風颯々樹間より來り灑然開豁たり黄昏又及び夕少點燈を照す予も此に遊び夏日の煩勞を忘れたり
相國寺ハ禪宗五山の一足利義滿の建設境地ハ廣寛にして喬松鬱鬱し堂舎整然たり相國寺門前の一の學校あり同志社と云ふ是ぞ新島襄氏の設立よか、る関西無二の私立學校なり數十棟の屋宇は生徒充満し教ふるは内外の學科を以てす英語の如きは外國博士敎入を以てし生徒の方正なるは基督教の本義としられたり附屬教會書籍館は近年の建築練瓦石の三層樓とし

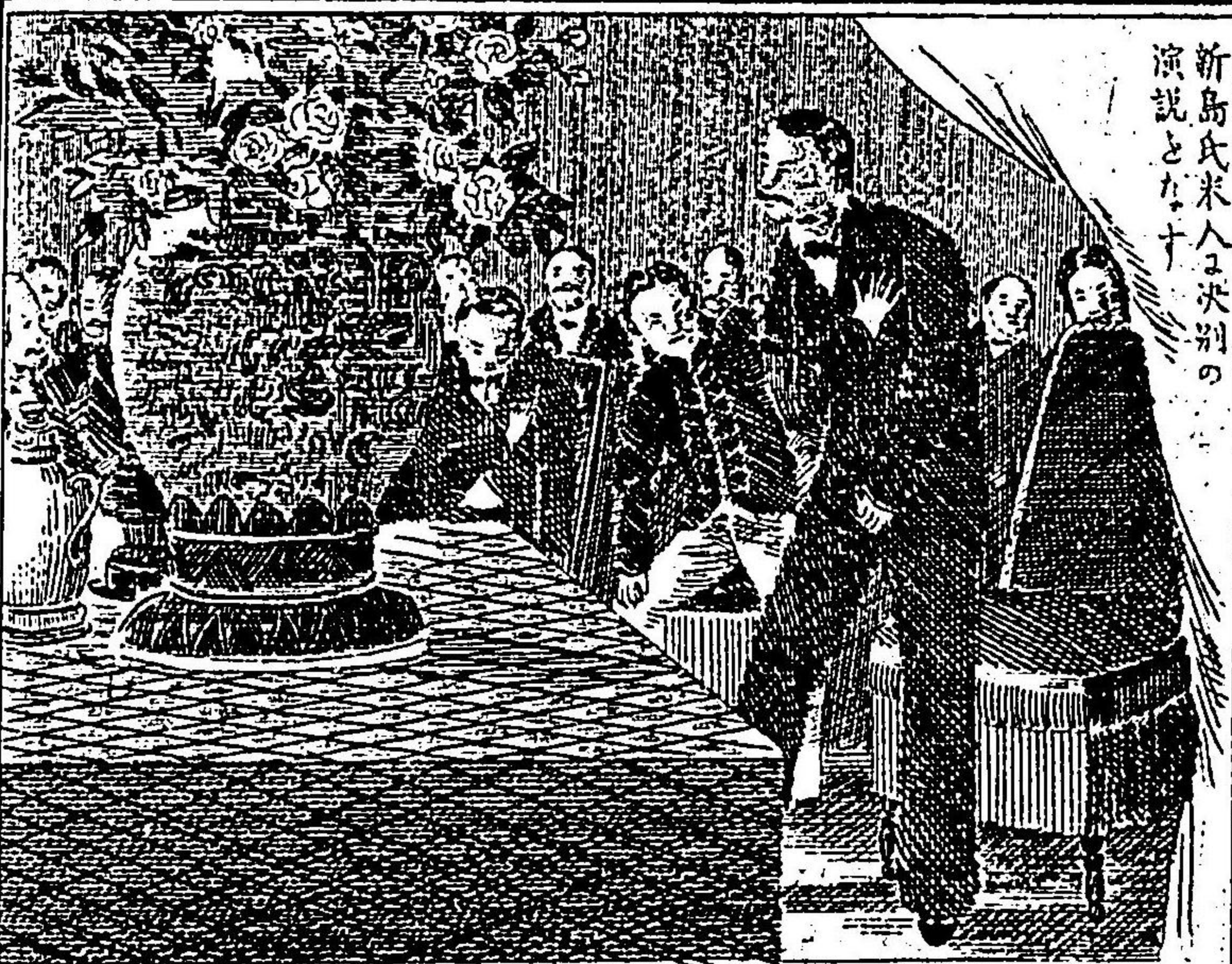
中小學より博物館書籍館盲啞院幼稚院其他百工技藝の講習所百種物産の製造所に至るまで概ね之を檢閲し或ハ諸州の學士有名の人物又接見し親ク其議論を聴クを得て大ニ悟る所あり以為らる蓋し北米開明の起源ハ學校にして其能ク制度文物を隆興せしめたる所以のものハ要するニ教化の功なり其教化の力の如此偉大なる所以ハ教育の法其宜を得たるにありと是又於て身の秀才淺學なるを顧みず自ら他年歸朝の日は必ず善美なる學校を起し教育を以て己ガ責任となさんことを誓ひたり

我明治の初年故岩倉特命全權大使の米國ニ航せられしや文部理事官田中不二磨君之ニ隨行し歐米諸國の教育法を檢閲せらる時ニ正ニアンドラア邑ニ在て勤學せしが亦召れて理事官隨行の命を被むる 敢て之を辭せず直ちニ旨を奉じて理事官と偕ニ北米中著名の大中小の學校を巡視し終て歐洲ニ赴き蘇格蘭英倫佛蘭士瑞西和蘭丁抹獨て魯西亞等の諸國を經歷し學校の組織教育の規律を初とし凡テ事の學政ニ関する者ハ總て之を究察し其周到善美を盡せるを觀て感益々切なり惟らく抑々學校は歐洲の規明にして彼の燦爛として學術の清輝を放ち近世の所謂文明の大光を寰宇間發射せしもの主として之が恩澤ニ因らざるはなし而

して教化は文明の生命にして教育ハ治安の母たるを悟り愈々歸朝の後ハ必ず一の大學を設立し誠實の教育を施し真正の教化を布き以て社會の安全を鞏固ならしめ以て我邦の運命を保ち以て東洋ニ文化の光を表彰せんことを望み造次ニも頓沛ニも敢て之を忘るゝことなかりし且又隨行ニ先だちては 忝なくも我邦大政府より特旨を以て曩ニ國禁を犯せし罪科を免除せられ加之數々登官の恩命を蒙りしが 敢て以て將來真正の開明文化を我邦ニ喚さんことを望むの切なるより固辭して拜せず理事官と歐洲ニ列れ再び米國ニ航しアンドラア神學校ニ歸り勉學年を累ね遂ニ卒業の初志を達するを得たり

明治七年の秋 襄の將ニ米國を辭し去らんとするや偶々碧山州口トランド府ニ於て亞米利加傳道會社の大會議あり 對の友人として議會ニ與る者頗る多きニ因り諸友 襄を要し勸めて臨會せしめ且訣別の詞を需む 襄遂ニ會場ニ趣き演壇上米國三千有餘の聽衆紳士ニ見へ平素の宿望を開陳して曰く凡テ何れの國を問はず苟も真正の文化を興隆せんと欲せば須らく人智を開發せざるべからず社會の安寧を保全せんと欲せば必ず真正の教育ニ依らざるべからず方今我邦日本ニ於てハ現ニ戊辰の變亂を経て舊來の陋習を破り封建の迷夢を醒して明治の

新島氏米入の決別の演説となす



新政を行ふの際真正の教育を布き以て治國の大本を樹立し以て人智を開發し以て真正の文化を興隆せざる可らず回顧すれば今を去る十一年前舊の郷國もありしや當時の國勢日々危き頻するを觀て憂憤の心又堪へず慨然五大洲歴遊の念を發し人情雖亦父母弟妹郷友又別れ一片訣別の辭もなく衣食住の計もなく幕府の大禁を犯して一身の窮困を顧みず愈々蹶で愈々奮ひ生命を天運に任せて成業を萬一二期し孤影飄蕭長風萬里の波濤を越へ遂に貴國に渡來せしも亦真正の開明文化と真正の自由幸福とを我日本國に求さんことを祈るの丹心は外ならず蓋

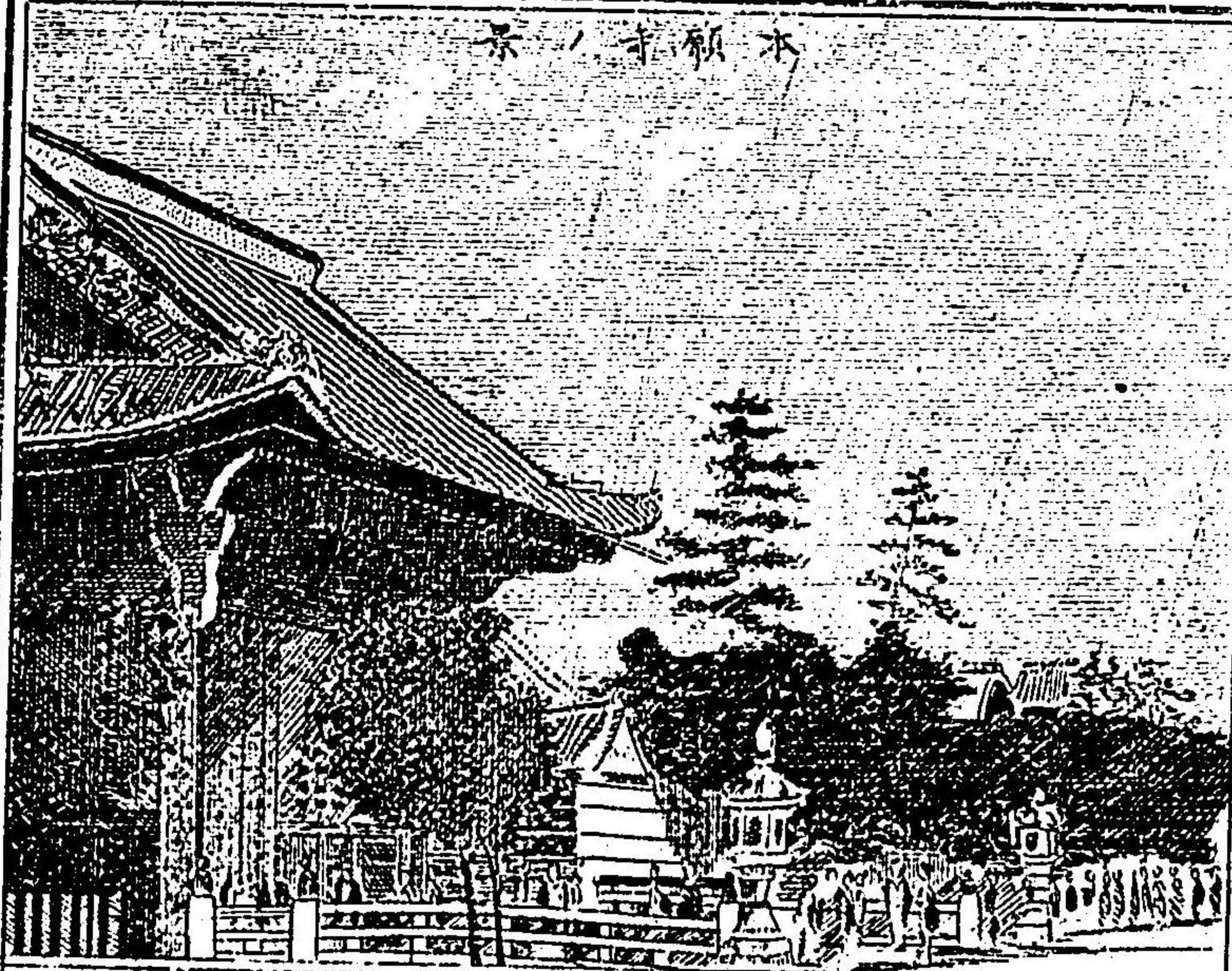
し我邦同胞三十餘萬の安危禍福は政柄の運轉固より重大なりと雖も一は教化の烈徳其力を効し教育の方針其宜を得ると否と又保はるべしと昭々乎として疑はざるべきも非ず今や貴國紳士諸友と袖を分て恙なく國又歸るを得ば必ず一の大學を設立し之が光明を假りて我國運の進路を照し他日日本文化の爲に涓埃の報を爲す所あらんとす嗟呼満場の聴衆よ兄弟よ親の赤心愛はるの如し誰か敢てか心情を洞察し其素志を翼賛する者ある乎哉と且つ演じ且問ひ慷慨悲憤の餘り不覺教行の感涙を壇上より注ぎ情溢れ胸塞り言辭を中止する其幾回なるを知らず何ぞ圖らん聴衆中忽ち人あり背後より直立し揚言して曰く新島氏よ子今氏が設立せんとする學校の爲に一千弗を寄附すべしと是なん華盛頓府の貴紳醫學博士パーカ氏にてありし其言未だ畢らざるに碧山州前府知事ペーリジ氏も亦起て一千弗寄附するの約を為せり之又次ぎ五百弗三百弗二百一百或は五十三十弗贈與の約ありて静肅なる場中忽ちとして歡呼の聲沸くが如し既にして懇懇又良朋諸士の好意を謝し離別を告げ將に演壇を下らんとする時一老農夫あり瘦身襤褸を纏ひ徐々進で裏の前より至り戰慄止まず懐中より金二弗を出し贈然涙を垂て曰く陋い碧山州北の寒貧農夫なり此二弗は今日陋が歸路旅車に乗んとして携へし所な

老婦新島氏
馬車に金二帛
呈せんとす



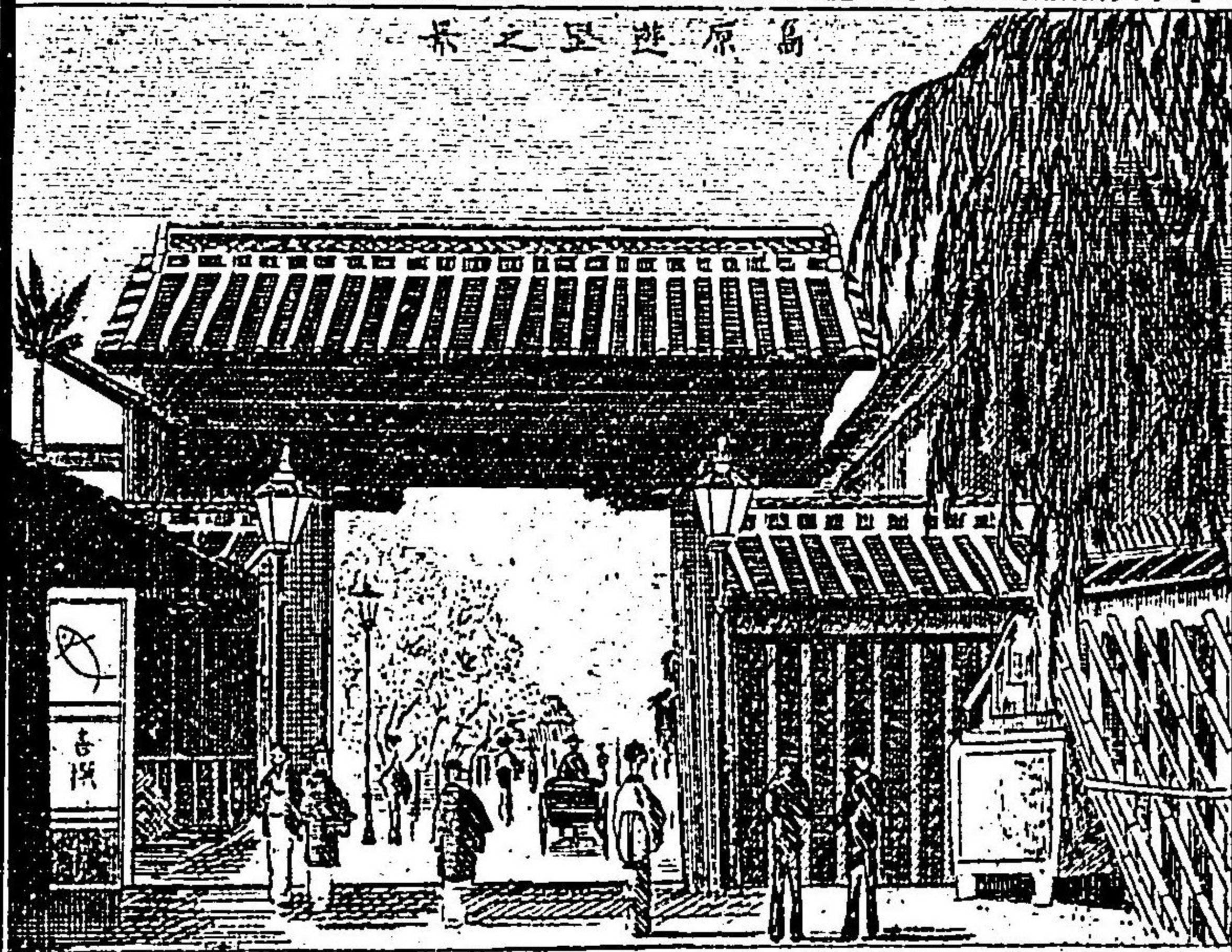
り然れども今子が演説を聞き深く子が愛國の赤心に感激せられ自ら禁ずる能はず假令陋爺老なりと雖も兩足尚能く徒歩して家歸るに堪ゆれば固より僅少敷ふるに足らざる七子が他日建設する大學費用の一端は供するあらば陋の喜び何ものか之は過んやと已として會散し其亦口トランド府を出て行く未だ一里ならざる時忽ち背後より對を呼ぶ者あり顧みて之を視れば一の老婦なり急ぎ近づき絮々語つて曰く、娘は近村の一寡婦にして貧殊に甚し然れども教育の一俸は於ては聊か子が素志を助けんとするの意あり今囊中僅に有る所の金二帛を呈

す然るに我々會場は於て敢て之を言ひざりしは誠其輕少なるを愧て而已寡婦の微志幸に領收あれよと言畢て泣く、益々味ひが我邦を愛するの懇篤なるを思ひ感喜之を受け曾て友人と語つて曰く口トランド府集會は於て最も我が衷情を感動せしめたる者は彼の老農夫と老寡婦との寄附金とありしと其後四方有志者の贈る所陸續雲集し来り其が宿志を達せんとするの基本畧定るに至れり既にして纜を香港に解き明治七年の末始て本邦に歸着し日夜學校設立の計畫してありしが八年一月大坂に至るや偶々故内閣顧問水戸孝允公の在坂せるも真正教育の要理を以てし併せて平生の宿望を吐露せし公は深く之を稱賛せられ加ふるに公は曾て在米の日より我々と相識るを以て専ら政府の問に周旋し我が志を貫徹するに務め賜へり、乃ち地を京都とすし前文部大輔田中不二磨君前京都府知事植村正直君の贊助を得遂に山本覺馬氏と結社し明治八年十一月廿九日私塾開業の公許を得て直に英學校を開設したりき同く十六年二月更に社員三名を増し敷地壹萬一千八百有餘坪校舍十棟書籍一千四百有餘巻及び本校に附屬する器械財産は本社所有且つ維持する處たり是即ち今の我同志社英學校の設立せし始末の大略なり



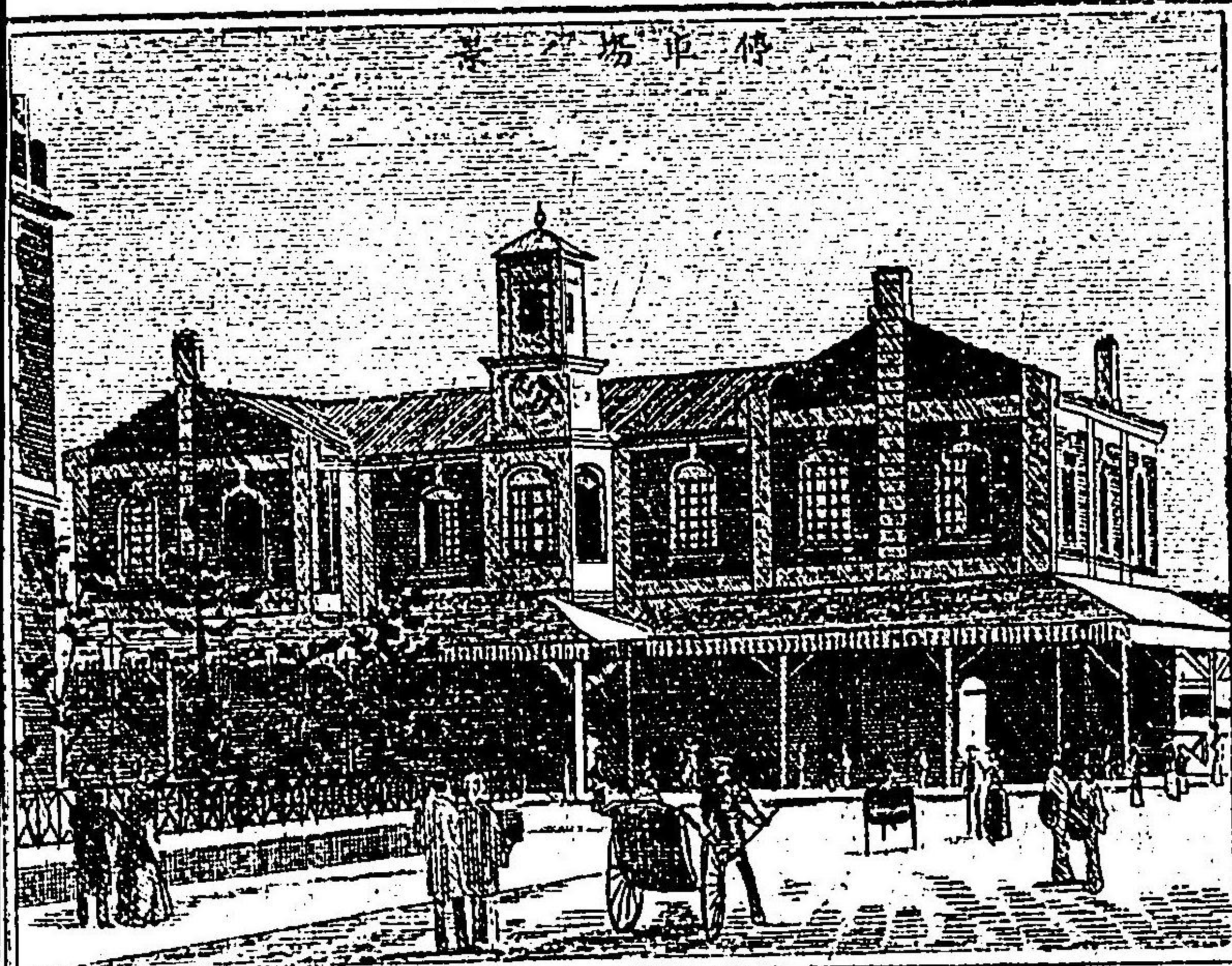
本願寺之景

五層の寶塔ハ林間ニ聳たり大師堂ハ晴昔大内裏の瀛爐館なり僧空海ニ賜り寺とす境地の東ニ池あり飄池云杜若多花時濃紫雪白と艶麗なり又蓮花の池あり都人茲ヨ三夏幽趣を賞観すとかや
 本願寺ハ境域二萬二千坪真宗の本山よして親鸞聖人の開基大門ハ堀川の流ニ臨て時ち茲ニ石橋を架し堂舎整然宏壯たる巨利なり賽人常ニ絡繹として絶す茲ニ飛雲閣あり豊臣秀吉の好造閣上画ハ元信之筆蹟清泉あり滄浪池と云龍背橋を架し池塘を嘯月坡と謂又櫻林を踏花場とし梅園を艶雪林と號く茶亭を青蓮謝或ハ澆花亭と



島原遊之景

京都府ハ下立賣五丁目洋風の建築巍々整然として宏壯なり○二條の城ハ慶長七年徳川家康の築造する処明治十九年離宮とす神泉苑社ハ池中の嶼ニあり小野小町和歌を詠じ降雨を祈しと謂傳ふ○壬生寺毎歲四月大念佛の狂言ハ一種の風致あり六角堂の觀音ハ聖徳太子の開基として都下第一の古刹なり○本國寺ハ日蓮宗の本山として境地廣く加藤清正の廟あり島原の遊里ハ足利の代ニ始り今ニ存在す東寺ハ教王護國寺と云境地廣寛喬松老松蒼々として南ニ面するを羅生門と云金堂ハ豊臣秀頼の再建東山大佛殿の模形あり



云幽艶の雅趣を備なり寺後高厦あり大
 教授と云
 東本願寺地域の壹萬八千六百余坪親鸞聖
 人十一世聖人嫡子教如聖人徳川家康の命
 又依て慶長年中創建維新の際兵燹に罹り
 方今再建中なり
 停車場ハ七條通馬丸大厦高樓煉化石の構
 造として花樹を培植し林泉の風致を成し
 此邊ハ肉樓茶肆欄を列べ路頭ハ人車殺撃
 雑沓たり

明治二十八年四月廿一日印刷
 明治二十八年四月廿五日發行

正價貳拾錢

版權所有

著者兼印刷者 青木恒三郎
 發行所 京都市上京區寺町二條下ル四十七番月山田直三郎
 發賣所 京都市寺町通二條下ル山田芸艸堂
 發賣所 大阪市東區博勞町心齋橋角(電話一五〇番)青木嵩山堂
 發賣所 東京市京橋區南傳馬町二丁目(電話七八九番)青木嵩山堂
 發賣所 京都市寺町四條上ル田中治兵衛
 全賣所 京都市東洞院三條上ル村上勘兵衛

貴族院議員正二位侯爵醍醐忠順公題辭

青木恒三郎君校閱 上田維曉君著述

旅行日本名所圖繪 七冊 寫真圖畫一

桐箱入美體製本正價二四五十錢 郵稅廿八錢

正四位阿津祐之君題辭 南枝 醉君校閱

香國土屏通豫君序文 青木恒三郎君著述

世界萬國名所圖繪 八冊 寫真圖畫一

旅行萬國名所圖繪 八冊 千有身挿入

桐箱入美體製本正價二四六十錢 郵稅卅四錢

上田維曉君著述

東京名所獨案内 全 正價十錢 郵稅四錢

上田維曉君著述

伊勢參宮名所圖繪 全 正價八錢 郵稅四錢

東海道鐵道名所案内 全 正價八錢 郵稅四錢

安藤靜君著述

京けんぶつ 美體雅裝 全一冊 正價卅五錢 郵稅四錢

青木恒三郎君著述

內地清國名所圖繪 全 正價二十錢 郵稅四錢

旅行清國名所圖繪 全 正價二十錢 郵稅四錢

寫真圖畫八十餘挿入

發賣所

大坂市東區傳勞町心齋橋筋角

東京市京橋區南傳馬町二丁目

東亞大陸旅行者原田藤一郎君校閱

青木恒三郎君著述

旅客支那內地案内 全 正價十錢 郵稅二錢

寫真石版圖畫數十葉挿入

東亞大陸旅行者原田藤一郎君著述

實踐北清事情 全 正價十五錢 郵稅四錢

地誌北京事情、奉天府、等寫真圖十張挿入

青木恒三郎君著作

分邦日本地圖 全 正價八十錢 郵稅十二錢

詳密驛路里程并三燈臺表附加

森琴石君著作 青木恒三郎君校正

大日本海陸全圖 全 正價卅五錢 郵稅四錢

荒川義泰君著作

鐵道大日本全地圖 全 正價十錢 郵稅二錢

明細上田貞次郎君著作

分邦萬國地圖 全 正價七十錢 郵稅十錢

詳密地文學用必要地圖十數葉附加

青木嵩山堂

